# 福岡市埋蔵文化財年報 VOL.33

一平成 30 (2018) 年度版一



2019 福岡市教育委員会

# 序

福岡市では、文化財保護法の趣旨に基づき、埋蔵文化財の適切な保存と活用を図ることを目的として、公共及び民間の各種開発事業の事前審査、記録保存のための緊急調査、また重要遺跡確認調査等を実施しております。

文化財部は平成24年度より教育委員会から市長部局の経済観光文化局へと移り、教育委員会の補助執行として、文化財活用を含め多岐にわたる文化財保護業務に取り組んでおります。

本書は、平成30年度における埋蔵文化財保護行政の概要を報告するものです。開発事業に 起因する事前審査件数は大幅な増加傾向をみせており、これに伴う緊急調査件数は平成25年 度より微増し続けています。今後とも埋蔵文化財保護業務については適正で迅速な対応を進め たいと思います。

本書が文化財保護に対するご理解の一助となり、また学術資料として活用いただければ幸いです。

令和2年3月25日

福岡市教育委員会 教育長 星子 明夫

### 例 言

- ・本書は、埋蔵文化財課、文化財活用課、史跡整備活用課が平成30年度に実施した各種開発事業に伴う事前審査と 発掘調査の概要及び本報告、ならびに新指定文化財の概要について収録したものである。
- ・本書に記載ある平成 30 年度調査のうち、調査番号 1802、1807、1808、1810、1812、1815、1826、1837 は この年報をもって本報告とする。
- ・Vの各調査の概要及び調査報告は各調査担当者が分担執筆した。VIについては文化財活用課(水野哲雄)が執筆した。
- ・上記以外の執筆並びに本書の編集は本田浩二郎が担当した。

表紙:1838 那珂遺跡群第175次現地説明会の様子

				2014
		目	次	
I	平成 30 年度文化財活用部の組織と分賞	掌事務	2	
Π	開発事前審査		3	
Ш	発掘調査		5	
IV	公開活動		5	
V	平成 30 年度発掘調査概要および報告		6	
VI	平成 30 年度新指定文化財		54	
報台	<b>告書抄録</b>		60	

### Ⅰ 平成30年度文化財活用部の組織と分掌事務

### 文化財活用部の組織と分掌事務

### 文化財活用部 51

文化財活用課 10

管理調整係(事4) 部の総括、予算・決算、庶務・経理、文化財施設の管理

調査普及係(文 1、学 1) 文化財保護審議委員会、文化財の調査、普及事業

歴史資源活用係(学1、文2) 歴史文化基本構想の策定、文化財の活用推進

史跡整備活用課 8

福岡城跡整備係(事1、文2) 福岡城跡の調査・整備・活用、課の庶務、福岡みんなの城基金に関すること

鴻臚館跡整備係(文1) 鴻臚館跡の調査・整備・活用

史跡整備活用係(文2、事1) 史跡の整備・活用

埋蔵文化財課 25

事前審査係(文4) 公共及び民間開発事業に係る埋蔵文化財の事前審査

主任文化財主事(文1)

調査第1係(文5) 課の庶務・主に東部地区の埋蔵文化財の発掘調査及び保存

主任文化財主事(文4)

調査第2係(文6) 国庫補助事業総括・主に西部地区に係る埋蔵文化財の発掘調査及び保存

主任文化財主事(文3)

埋蔵文化財センター 6

運営係(文2事1) 施設の管理運営、埋蔵文化財の収蔵・保管・展示等、教育普及

保存分析係(文2) 埋蔵文化財の保存・分析

事:事務職 文:文化財専門職 学:文化学芸職

### 埋蔵文化財課の職員構成(文化財専門職)

埋蔵文化財課長 大庭康時 調査第1係長 吉武学

事前審査係長 本田浩二郎 係 員 木下博文 板倉有大 松﨑友理 神啓崇 係 員 吉田大輔(~平成30年9月)主任文化財主事 佐藤一郎 池田祐司 尾山洋 上角智希

中尾祐太 朝岡俊也 嘱託員 中園将祥

山本晃平(平成30年10月~)

主任文化財主事 田上勇一郎 調査第2係長 大塚紀宜

係 員 久住猛雄 清金良太 加藤良彦 荒牧宏行

三浦悠葵 三浦萌

主任文化財主事 井上繭子 藏冨士寛 常松幹雄

熊本市派遣 山本晃平(上半期)

吉田大輔 (下半期)

### Ⅱ 開発事前審査

### 1. 概 要

本市では、土木工事等の各種開発事業に係る埋蔵文化財の取り扱いについて、開発事業計画地における埋蔵文化 財の有無を確認した上で、保存に係わる協議等を行っている。

公共事業については、関係機関・部局に次年度の事業計画の照会を行い、埋蔵文化財の保存上問題になると判断 される事業についてはその取り扱いについて協議を行っている。

民間の開発事業については、都市計画法に基づく1,000㎡以上の開発事業、建築基準法に基づく建築事業等を対象として事前協議を求めている。また建築等の計画策定段階での照会にも窓口やファックスで応じ、埋蔵文化財の保存上の措置について必要な指示を行っている。平成24年8月からは本市ホームページにて、包蔵地外町丁名リストの公開を開始し、利用者の照会の便宜を図っている。

### 2. 平成30年度の事前審査

平成30年度の事前審査件数は、表1のとおりである。福岡市域の開発事業を反映するように増加傾向となるが、 平成22年からは年間2500件前後で高止まり状態となる。平成26年度から平成30年度にかけて、若干の増減 はあるが、ほぼ横ばいの状況となっている。

事業	内訳	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業照会審査件数	662	668	665	769	862	1,143	1,191	1,181	1,181	1,220	989	1,381	1,381	1,280	1,322
公	申請審査件数	112	113	133	161	202	228	195	191	184	135	290	155	164	137	115
	審査件数計	774	781	798	930	1,064	1,371	1,386	1,372	1,365	1,355	1,279	1,536	1,545	1,417	1,437
	窓口照会件数	5,842	6,126	8,309	7,226	6,144	5,555	6,225	6,791	7,195	6,491	12,301	12,356	14,349	14,773	16,687
民	FAX照会件数	1,499	2,296	3,354	3,990	3,537	3,729	4,584	5,716	7,170	7,999	8,648	9,317	9,936	9,904	10,524
間	照会件数計	7,341	8,422	11,663	11,216	9,681	9,284	10,809	12,507	14,365	14,490	20,949	21,673	24,285	24,677	27,211
	申請(審査)件数	1,207	1,257	1,090	1,011	1,000	924	1,184	1,176	1,261	1,339	1,140	1,147	1,123	1,134	1,265
公・	民申請審査件数計	1,319	1,370	1,223	1,172	1,202	1,152	1,379	1,367	1,445	1,474	1,430	1,302	1,287	1,271	1,380
	公·民審査件数計	1,981	2,038	1,888	1,941	2,064	2,295	2,570	2,548	2,626	2,694	2,419	2,683	2,668	2,551	2,702

表 1 平成 16~30年度事前審査件数

### 申請内容

公共事業に伴う依頼は115件となり、昨年度からわずかに減少している。事業者別では、国機関17件、福岡県3件、福岡市95件となる。事業別に見ると水道・電気等52件、道路15件、学校関係9件、空港関係8件、その他の開発・建物は31件である。このうち公有財産の売却等の土地調査にかかる事前審査依頼は1件であった。なお事業照会件数は1,322件で、昨年度から微増する。事業別の内訳は、上下水道983件、学校108件、道路は120件、公園54件、空港施設関連11件であった。民間事業1,265件の届出内容は、事業別では個人住宅394件、戸建住宅261件、共同住宅194件、宅地造成39件、個人住宅兼工場または店舗4件など住宅関連事業をあわせると850件となる。土地売買・区画整理計画地の事前の調査依頼は96件であった。共同住宅の件数が前年度比で減少するが、売買に先立つ事前の調査依頼件数が急激に増加している。

公共・民間の申請件数の合計を区別に見ると、東区 141 件、博多区 299 件、早良区 275 件、西区 222 件、南区 265 件、中央区 45 件となる。前年と同様に博多区・早良区・南区の開発が高水準で継続していることが分かる。

### 指導内容

公共、民間各事業の事前審査の結果、事業者に指導した内容は表3のとおりである。次年度への継続、取り下げを除くと審査件数(申請件数)は1,377件で、前年より100件程度増加した。総括的に見ると書類審査での回答985件、踏査11件、試掘354件である。審査結果は開発同意129件、慎重工事1,132件、工事立会124件、発掘調査79件、要協議(設計未定、売却予定で遺跡ありなど)1件である。

### 試掘調查 • 確認調查

包蔵地内で行われる確認調査、包蔵地隣接地・包蔵地外で行われる試掘調査(以下試掘調査と総称する)は平成30年度で353件実施した。区別の内訳として東区30件、博多区95件、中央区9件、南区60件、城南区25件、早良区73件、西区61件となる。対象とした遺跡数は131遺跡である。10件以上試掘した遺跡としては博多遺跡群17件、比恵・那珂遺跡群17件、有田遺跡群14件となっている。包蔵地隣接地および包蔵地外での試掘調査は41件であった。試掘件数としては昨年度実績254件に比べ100件程度増加した。

### 窓口等照会(表1)

民間業者等による窓口での「埋蔵文化財の有無に係わる照会」等は 16,687 件、ファックスでの照会は 10,524 件、あわせて 27,211 件で、平成 29 年度実績 24,677 件より 2,500 件程度増加した。平成 24 年 8 月より本市ホームページにて、包蔵地外町丁名リストの公開を開始し、利用者の照会への便宜と照会件数減を図っているが、窓口件数は大きく増加している。ファックス照会件数は 22 年度以降毎年増加しているが、30 年度は前年度から大きく増加し 10,000 件を超えた。ホームページ「福岡市の文化財」では、「福岡市埋蔵文化財包蔵地分布図 (Web 版)」を整備・公開しており、窓口のみでしか閲覧できなかった埋蔵文化財包蔵地分布図が遠隔地からも確認できるようになった。

### 3. 埋蔵文化財包蔵地の改訂(表8)

本市では、試掘・確認調査や発掘調査等の成果にもとづき、より正確な埋蔵文化財包蔵地範囲の実情に近づけるため、また、事前審査業務の効率を図るため、包蔵地・隣接地の改訂作業を随時実施している。平成30年度は8件、8遺跡で実施した。遺跡の範囲拡大は4件、縮小は1件あり、隣接地の拡大は4件、2件で隣接地の解除を行った。また、平成30年度には1遺跡(博多区榎田北遺跡)の新規登録と1遺跡(中央区福岡城下町遺跡)の大幅な範囲拡大を行った。

表 2 平成 30 年度事前審査内訳(※民間事前審査 3 件欠番)

					審査	查種別	(書類	審査・珪	見地踏	査・試掘	調査)	でみた	判断指	言示の結	課				区別審査件数	
区	業	17.57 61 5761		惇	慎重工事		工事立会		発掘調査		協議			審査	取り	<b>上</b>	<b>∃1十女</b> X			
名		書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	継続	下げ	公民別計	区計
東	公共	3			8			1			2		1						15	141
*	民間	16		1	66	1	14	14		3	1		7			1	1	1	126	141
博多	公共	5			23		1	5											34	299
日多	民間	14		1	136	1	43	14		16	3		30	2		3	1	1	265	299
中央	公共				5									1		1			7	45
十大	民間	5	1	1	22		2			4			2				1		38	45
南	公共		1		13		1										1		16	265
用	民間	14		2	152		45	16		7			8			1	1	3	249	
城南	公共				1														1	130
小刈干」	民間	6	1		84	3	23	5		1	2			1		2		1	129	130
早良	公共	3			14					1							1		19	275
+区	民間	16		2	143		52	15		6	8		11	2				1	256	
西	公共	2			14		2	3					1				1		23	222
ŭ	民間	32			111		35	4	6	4	2		3	2					199	222
小計	公共	13	1	0	78	0	4	9	0	1	2	0	2	1	0	1	3	0	115	1377
ופיני	民間	103	2	7	714	5	214	68	6	41	16	0	61	7	0	7	4	7	1262	
合	計	116	3	7	792	5	218	77	6	42	18	0	63	8	0	8	7	7	1377	

### Ⅲ発掘調査

### 1. 平成30年度の発掘調査

30年度の発掘調査件数は、表4に示したように、29年度からの継続事業4件、30年度新規事業41件の計45件で、このうち6件は平成31年度に継続である。新規調査41件は文化財保護法第93、94条に基づく記録保存のための発掘調査36件のほか、92条に基づく学術調査5件、史跡整備に伴う調査1件を含んでいる。

36件の発掘調査総面積は14,852㎡で、前年度と比べ調査件数自体は減少するが、調査面積は増加となる。公民別では公共事業が1,336㎡、民間事業が13,516㎡であり、民間が91%を占めている。公共事業総面積が前年度比で45%となりやや減少する一方で、民間事業は約10%増加している(平成24年度から、国立大学法人関係の調査は民間事業扱いとしている)。今年度も前年度に続いて土地区画整理や圃場整備事業に伴う発掘調査は実施していない。

個々の発掘調査の面積としては、100㎡以下が8件、101~300㎡が9件、301~500㎡が5件、501~1,000㎡が6件、1,001~10,000㎡が3件となり、中規模な開発事業の増加がみられる。300㎡以下の小規模調査は17件と、前年度の20件から件数・比率とも減少する。1件あたりの平均調査面積は401㎡、公共事業で1,336㎡、民間事業では375㎡である。区ごとでは東区7件、博多区15件、中央区1件、南区3件、城南区1件、早良区10件、西区0件となり、博多区に調査件数が集中する傾向が引き続き顕著である。

各区の面積では、東区 6,823㎡、博多区 4,740㎡、中央 30㎡、南区 407㎡、城南区 131㎡、早良区 2,719㎡、西区 0㎡である。博多区は調査件数では他区を大きく上回る状況にあるが、これは近年の市内の宿泊施設不足問題に起因するもので、調査件数全体の増加に直接関連している。なお博多遺跡群、箱崎遺跡などでは複数の遺構面を調査するため、実際の発掘面積は増加する。

表3 平成30年度 発掘調査区別調査件数・面積(前年度継続分4件・学術調査5件を除く)

平成30年度	東	博多	中央	南	城南	早良	西	全市
公共調査	1	0	0	0	0	0	0	1
民間調査(民受+令達+補助)	6	15	1	3	1	10	0	36
計	7	15	1	3	1	10	0	37
調査面積総計(m <sup>3</sup> )	6,823	4,740	30	407	131	2,719	0	14,852
平均調査面積/1件	975	316	30	136	0	272	0	401

参考 学術調査 5件 2,600㎡ 継続4件調査面積 3,949.7㎡

表4 発掘調査件数の推移 ( ) 前年度からの継続件数, なお学術調査5件は除く

	事 業	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
民 間	調査件数	21 (6)	30 (0)	27 (1)	22 (2)	42 (4)	50 (5)	47 (5)	48 (7)	38 (5)	40 (4)
(民受+令達+補助	調査面積(㎡)	11,190	15,649	6,175	15,333	20,293	15,786	10,687	12,807	16,498	17,467
圃場整備	調査件数	4 (0)	4 (2)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 0
四物正洲	調査面積(㎡)	0	9,775 1,984		0	0	0 0		0	0	0
公共	調査件数	16 (3)	16 (3)	23 (3)	19 (2)	5 (1)	6 (1)	8 (2)	2 0	3 (2)	1 0
A 75	調査面積(㎡)	33,099	22,856	14,322	14,440	3,315	1,996	6,842	1,728	2,909	1,336
合 計	調査件数	41 (9)	50 (5)	51 (7)	41 (4)	47 (5)	56 (6)	55 (7)	50 (7)	41 (7)	41 (4)
	調査面積(㎡)	44,289	48,280	22,481	29,773	23,608	17,782	17,529	14,535	19,407	18,803

※調査件数・面積は前年度からの継続件数も含むが、大学による学術調査5件は含まない

### Ⅳ公開活動

市民への公開を目的として、記者発表や現地説明会、体験学習および福岡市埋蔵文化財調査報告書の刊行等がある。平成30年度は博多区那珂遺跡群第175次調査にて現地説明会を実施し、多くの見学者が訪れた。また市内小中学校の体験学習の一環として発掘調査や整理作業への参加を受け入れており、平成30年度は、福岡市立城西中学校・壱岐が丘中学校・那珂中学校・高取中学校の生徒を対象に市内の発掘現場及び整理室において、職場体験学習を行った。

公開・活用に資するための埋蔵文化財報告書・年報は、表7のとおり計29冊が刊行された。

### V 平成30年度発掘調査概要・報告

調査概要・報告は表 6 の調査番号順に掲載し、位置番号は右ページの調査一覧表と一致する。 また、各報文の図〔1. 調査地点の位置〕の( )内は、左から福岡市都市計画図図幅番号・図幅名称・遺跡番号・ 縮尺である。

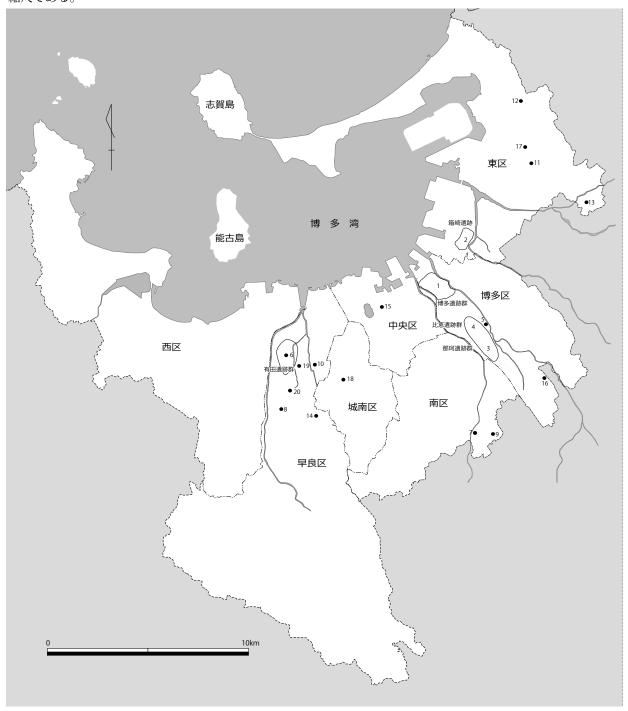


表 5 平成 30 年度発掘調査遺跡一覧表

11. 青葉遺跡 1. 博多遺跡群 6. 有田遺跡群 16. 仲島遺跡 2. 箱崎遺跡 7. 弥永原遺跡 12. 高節遺跡 17. 香椎 A 遺跡 3. 那珂遺跡群 8. 田村遺跡 13. 蒲田部木原遺跡 18. 飯倉 E 遺跡 4. 比恵遺跡群 9. 警弥郷 B 遺跡 14. 野芥遺跡 19. 原東遺跡 5. 山王遺跡 10. 原遺跡 15. 福岡城跡 20. 次郎丸高石遺跡

表 6 平成 30 年度発掘調査一覧

調査番号	申請番号	遺跡名	略号	次数	原因	種別	区	所在地	調査面積	着手	終了	地図	主番
1710	28-2-718	博多遺跡群	НКТ	213	ホテル	民受	博多	冷泉町68番他	871	H29.6.5	H30.6.5	049	0121
1735	28-2-240	山王遺跡	SNN	13	本社ビル改築	民受	博多	山王2丁目3番地5	1648.7	H29.11.27	H30.7.27	037	2379
1738	29-2-626	比恵遺跡群	HIE	151	店舗	民受	博多	博多駅南 5 丁目62番他	730	H30.3.12	H30.5.28	037	0127
1739	28-2-82	博多遺跡群	HKT	218	銀行	立会	博多	博多駅前2丁目220, 221, 222	700	H30.3.23	H30.5.26	048	0121
1801	29-2-666	博多遺跡群	HKT	219	共同住宅	民受	博多	下呉服町406-1~6他	250	H30.4.2	H30.5.25	48	0121
1802	29-2-409	警弥郷B遺跡	KYB	8	共同住宅	立会	南	弥永5丁目19-1, 19-2	54.4	H30.4.2	H30.4.6	41	0158
1803	28-2-338	那珂遺跡群	NAK	173	共同住宅	民·補	博多	那珂 1 丁目148・143	301	H30.4.16	H30.6.15	37	0085
1804	29-2-680	博多遺跡群	HKT	220	ホテル	民受	博多	冷泉町430	186	H30.5.7	H30.8.7	49	0121
1805	_	博多遺跡群	HKT	221	跡地活用	令達	博多	上川端町97-1	703.5	H30.4.25	継続中	49	0121
1806	29-2-937	山王遺跡	SNN	14	共同住宅	民受	博多	山王2丁目18-5	144.56	H30.5.7	H30.6.21	37	2379
1807	29-2-865	原東遺跡	HRH	4	共同住宅	民受	早良	飯倉4丁目522番1	76	H30.5.9	H30.5.22	82	0313
1808	30-2-85	有田遺跡群	ART	265	モデルルーム	民受	早良	有田2丁目20-8, 20-9	192	H30.5.21	H30.6.5	82	0309
1809	_	田村遺跡	TMR	27	公民館	令達	早良	田村5丁目755-1, 757-1	858	H30.6.1	H30.9.6	84	0317
1810	30-2-131	弥永原遺跡	YNB	14	専用住宅	国補	南	柳瀬1丁目134番2	74	H30.6.18	H30.6.27	26	0105
1811	29-1-20	青葉遺跡	AOB	1	区画整理	民受	東	青葉1丁目317, 307-1	338	H30.6.25	H30.9.25	7	2618
1812	30-2-368	高節遺跡	TKF		擁壁工事	国補	東	下原4丁目907番6		H30.8.1	H30.8.7	16	2741
1813	29-2-678	蒲田部木原遺跡	KHH		倉庫	民受	東	蒲田3丁目742他		H30.8.1	H31.4.30	2	0003
1814	_	福岡城跡	FUE		史跡整備	史跡	中央	城内1番1、1番4		H30.7.31	H30.9.30	60	0193
	29-2-1122		NKE		共同住宅	国補	早良	野芥4丁目679-1, 680-1, 680-3		H30.8.2	H30.8.3	83	0319
1816	29-2-385		NAK		建物解体	民受	博多	那珂6丁目314番他			H31.1.18	37	0085
1817		箱崎遺跡	HKZ		土地売却(HZK1801)	学術	東	箱崎6-10-1(九州大学構内)			H30.11.8	34	2639
1818		比恵遺跡群	HIE		共同住宅	民·補	博多	博多駅南4丁目220の一部		H30.8.27	H30.10.11	37	0127
1819	30-2-227		ART		戸建住宅	民受	早良	有田1丁目32-6, 32-7		H30.9.10	H30.9.20	82	0309
1820	30-2-272		TMR		宅地造成	民受	早良	田村2丁目706番1,708番7			H31.3.22	84	0317
1821	29-2-551		HKT		ホテル建設	民受	博多	祇園町149-4他6筆			H31.1.18	49	0121
1822	30-2-174		ART		専用住宅	国補	早良	有田2丁目16-7			H30.9.29	82	0309
1823	30-2-254		HKT		ホテル建設	民受	博多	冷泉町389,394,391,378・377の一部			H31.4.22	49	0121
1824	_	箱崎遺跡	HKZ		学術研究(HZK1802)	学術	東	箱崎6-10-1(九州大学構内)		H30.9.3	H31.1.18	34	2639
1825	29-2-992	箱崎遺跡	HKZ		共同住宅	民受	東	馬出5丁目99番	138	H30.10.1	H30.11.21	34	2639
1826	30-2-401	比恵遺跡群	HIE		共同住宅	民受	博多	博多駅南5丁目69番			H30.11.7	37	0127
1827		山王遺跡	SNN		共同住宅	民受	博多	山王2丁目40番3,40番4			H30.12.26	37	2379
1828	30-2-197	弥永原遺跡	YNB	15	学校施設	民受	南	日佐3丁目42-1	279	H31.1.9	H31.3.30	26	0105
1829	_	箱崎遺跡	HKZ		学術研究(HZK1803)	学術	東	箱崎6-10-1(九州大学構内)			H31.1.18	33	2639
1830	30-1-61	箱崎遺跡	HKZ	92	道路建設	公受	東	箱崎6丁目10-1 都市計画道路範囲			H31.3.31	34	2639
1831		有田遺跡群	ART		共同住宅	国補	早良	小田部3丁目284番		H30.11.12		82	0309
1832		香椎A遺跡	KSA		宅地造成	民受	東	香椎三丁目1045-1他			H31.3.8	17	0069
1833	30-2-397	仲島遺跡	NKZ	6	事務所	民受	博多	井相田2丁目4番2	294.4	H31.1.15	H31.2.27	12	0037
1834		比恵遺跡群	HIE	154	専用住宅	国補	博多	博多駅南6丁目79番2		H30.12.4	H30.12.28	37	0127
1835		博多遺跡群	HKT		ホテル	民受	博多	冷泉町450番, 451番			H31.4.19	49	0121
1836							欠	番					
1837	30-2-213	飯倉E遺跡	IKR-E	3	共同住宅	国補	城南	七隈5丁目384	131.34	H31.1.21	H31.2.2	74	0252
1838		那珂遺跡群	NAK		重確	国補	博多	那珂1丁目44-14		H31.2.1	H31.2.18	37	0085
1839		箱崎遺跡	HKZ		土地売却(HZK1804)	学術	東	箱崎6-10-1(九州大学構内)		H31.3.21	R1.7.28	34	2639
1840		箱崎遺跡	HKZ		学術研究(HZK1805)	学術	東	箱崎6-10-1(九州大学構内)		H31.3.15	R1.5.10	34	2639
1841	30-2-699		HAA		共同住宅	民受	早良	原8丁目1178番7, 1178番8			H31.3.8	82	0311
1842	30-2-196		HKZ		自宅兼共同住宅	民補	東	箱崎 1 丁目2672, 2684-1		H31.3.11	R1.5.29	34	2639
1843		次郎丸高石遺跡	JRT		共同住宅	民補	早良	賀茂3丁目423番1他		H31.3.18	H31.4.9	83	1843
1043	30 2 010	ハ (AP /: UI PJ LI ASEM)	21/1	_ ′	ンバッド・ロ	TAIM	71X	X/// 1 H 12/8 1 ID	103.3			03	1073

表 7 平成 30 年度刊行報告書一覧

書名	副書名	収録調査番号·調査名
今津A遺跡1	今津A遺跡第 1 次調査報告	1728 今津A遺跡第1次調査
大橋E遺跡8	大橋E遺跡第13次調査の報告	1635 大橋E遺跡第13次調査
雀居12	雀居遺跡第20次調査報告	1718 雀居遺跡第20次調査
山王遺跡9	山王遺跡第11次調査報告	1713 山王遺跡第12次調査
山王遺跡10	第12次調査報告	1716 山王遺跡第12次調査
住吉神社遺跡3	住吉神社遺跡第4次調査報告	1533 住吉神社遺跡第4次調査
那珂79	那珂遺跡群第171次調査報告	1708 那珂遺跡群第171次調査
中村町遺跡 6	中村町遺跡第7次調査報告	1706 中村町遺跡第7次調査
中村町遺跡7	中村町遺跡第8次調査報告	1721 中村町遺跡第8次調査
野方岩名隈 2	野方岩名隈遺跡第2次調査報告	1604 野方岩名隈遺跡第2次調査
博多162	博多遺跡群第208次調査報告	1636 博多遺跡群第208次調査
博多163	博多遺跡群第210次調査報告	1639 博多遺跡群第210次調査
博多164	博多遺跡群第214次調査報告	1711 博多遺跡群第214次調査
博多165	博多遺跡群第215次調査報告	1722 博多遺跡群第215次調査
箱崎57	箱崎遺跡第82次調査報告	1645 箱崎遺跡第82次調査
箱崎58	箱崎遺跡第84次調査の報告	1712 箱崎遺跡第84次調査
比恵86	比恵遺跡群第146次調査報告	1618 比恵遺跡群第146次調査
比恵87	比恵遺跡群第148次調査報告	1641 比恵遺跡群第148次調査
麦野C遺跡 9	麦野C遺跡第16次調査の報告	1627 麦野C遺跡第16次調査
姪浜遺跡 5	第6次調査報告	1702 姪浜遺跡第6次調査
弥永原 9	弥永原遺跡第12・13次調査	1534 弥永原遺跡第12次調査 1628 弥永原遺跡第13次調査
立花寺 7	立花寺遺跡第11次調査の報告	1540 立花寺遺跡第11次調査
元岡·桑原遺跡群32	第52次・第54次調査の報告	0763 元岡桑原遺跡群第52次調査 0844 元岡桑原遺跡群第54次調査
二图, 系质谱贴群22	55次・56次調査の報告	1001 元岡桑原遺跡群第55次調査
儿间·条/永度即件33	元岡古墳群G群 6 号墳の報告	1043 元岡桑原遺跡群第56次調査
元寇防塁	調査総括報告書	
史跡 鴻臚館跡	鴻臚館跡25-総括編-	8747 鴻臚館跡第1次調査等
	遺跡 改修事業報告	
元岡·桑原遺跡群34		
工化財年報VOL.32	平成29(2017)年度版	1715 有田遺跡群第264次調查 1717 五十川遺跡第22次調查 1727 雑餉隈遺跡第22次調查 1729 麦野B遺跡第6次調查 1737 名島城跡第7次調查 1606 箱崎遺跡第79次調查 1624 那珂遺跡群第166次調查 1642 井相田A遺跡第3次調查 1646 那珂遺跡群第169次調查
	今津A遺跡1 大橋E遺跡8 雀居12 山王遺跡9 山王遺跡10 住吉神社遺跡3 那珂79 中村町遺跡 6 中村町遺跡 7 野方岩名限 2 博多162 博多163 博多164 博多165 箱崎57 箱崎58 比恵86 比恵87 麦野C遺跡 9 姪浜遺跡 5 弥永原 9 立花寺 7 元岡・桑原遺跡群32 元岡・桑原遺跡群33 元寇防塁 史跡 鴻臚館跡 国史跡 金隈遺跡・野方元岡・桑原遺跡群34	今津A遺跡1 今津A遺跡第1次調查の報告  大橋E遺跡8 大橋E遺跡第13次調查の報告  雀居12 雀居遺跡第20次調查報告  山王遺跡9 山王遺跡第11次調查報告  山王遺跡10 第12次調查報告  位吉神社遺跡3 住吉神社遺跡第4次調查報告  那珂79 那珂遺跡群第171次調查報告  中村町遺跡6 中村町遺跡第7次調查報告 中村町遺跡7 即力遺跡第8次調查報告  中村町遺跡7 中村町遺跡第2次調查報告  博多162 博多遺跡群第210次調查報告  博多163 博多遺跡群第210次調查報告  博多165 博多遺跡群第215次調查報告  博多165 博多遺跡群第215次調查報告  精崎57 箱崎遺跡第82次調查報告  指崎58 箱崎遺跡第82次調查和告  北惠遺跡群第146次調查和告  比惠遺跡群第146次調查和告  比惠遺跡群第145次調查和告  左下遺跡9 麦野C遺跡第16次調查の報告  佐東遺跡5 第6次調查報告  第分永原遺跡群32 第52次・第54次調查の報告  元商・桑原遺跡群33 55次・第54次調查の報告  元屆 桑原遺跡群33 55次・第6次調查の報告  元屆 桑原遺跡群33 75次。56次調查の報告  元屆 桑原遺跡群34 76% 第6% 第6% 第6% 第6% 第6% 第6% 第6% 第6% 第6% 第

平成30年度に福岡市内で実施した新規の発掘調査は、92条に基づく学術調査を含めて42件である。本年報では各調査の概要について報告を行うが、例言に記載したとおり調査番号1802、1807、1808、1810、1812、1815、1826、1837の8調査については、本年報内において本報告を行う。これらの調査はいずれも短期間、狭小な対象面積を対象に行ったものである。

各調査の詳細については、各報告および巻末に掲載し た抄録を参照されたい。



那珂遺跡群第 175 次(市指定史跡 那珂八幡古墳) 調査 現地説明会当日の様子(2019 年 2 月 15 日)

### 表 8 平成 30 年度包蔵地等改訂一覧

番号	遺跡名称	変更事項	主な所在地
1	三宅B遺跡	包蔵地の一部を新設・拡大し隣接地を新設・修正する	南区和田3丁目
2	今山遺跡	隣接地の一部解除	西区横浜2丁目
3	蒲田部木原遺跡	包蔵地の拡大	東区蒲田3丁目
4	小戸古墳群	隣接地の一部解除	西区小戸
5	舞鶴遺跡	隣接地の一部解除	中央区舞鶴1丁目
6	榎田北遺跡	包蔵地・隣接地の新設	博多区榎田1丁目
7	飯倉E遺跡	包蔵地の一部を新設・拡大し隣接地を新設・修正する	城南区干隈1丁目他
8	福岡城下町遺跡	包蔵地の一部を新設・拡大し隣接地を新設・修正する	中央区赤坂, 大名

# 1801 博多遺跡群第 219 次調査 (HKT219)

所 在 地 博多区呉服町 406-1~6、407-1~8 他

調查原因 共同住宅

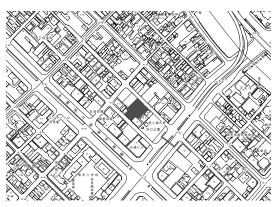
調査期間 2018.4.2 ~ 2018.5.25

調査面積 250㎡ 担 当 者 藏冨士寛 処 置 記録保存

### 調査の概要

第219次調査地点は、博多遺跡群の北東側、「息浜」の北東端部近くに位置し、第212次が隣接する。遺構は、井戸・石積土坑・溝・柱穴等を検出した。柱穴の多くは底面に根石を持つが、これら柱穴が一列に並び、調査区を縦断して検出されたことは注目される。この柱穴列は、長さ約15m以上にわたって存在しており、部分的に浅い溝状の掘り込みを伴って、北東ー南西方向に延びている。長屋建物や塀などの遺構である可能性が考えられるが、今後の検討が必要である。いずれも16世紀以降に位置づけることができる。遺物は、陶磁器、土師器、銅銭など、コンテナ25箱分が出土した。

調査では、中世の終わりごろから近世にかけての生活遺構を確認するなどの成果を挙げた。第212次調査と同様、遺構、遺物共にやや少なめであるが、これは「息浜」縁辺部における集落の、一つのありようを示しているといえる。



1. 調査地点の位置(48 千代・博多 0121 S=1/8000)



2. 東側調査区全景(南西から)

# 1802 警弥郷 B 遺跡第 8 次調査 (KYB8)

所 在 地 南区弥永 5 丁目 19-1、19-2

調査原因 共同住宅

調査期間 2018.4.2 ~ 2018.4.6

調査面積 54.4 m 担 当 者 清金良太 処 置 記録保存

### 調査の概要

### 1. 調査に至る経過

平成29年8月2日付けで、当該地における埋蔵文化財の有無についての照会文書が提出された(事前審査番号29-2-409)。平成30年2月7日に申請地で確認調査を実施したところ、明確な遺構は確認できなかった。しかし、過去の確認調査から遺構面が敷地西側では遺存すると報告されていたことから、共同住宅建設により遺構が影響を受ける範囲については調査対象地とした。発掘調査は2018年4月2日から調査区の掘削作業を開始し、同年4月6日に作業を終了した。

### 2. 位置と環境

警弥郷B遺跡は福岡市南区に所在し、市域の南側端部の那 珂川右岸の沖積台地上に位置する。遺跡は福岡市だけでなく 春日市へと広がっており、敷地は道路を挟んで春日市と接す

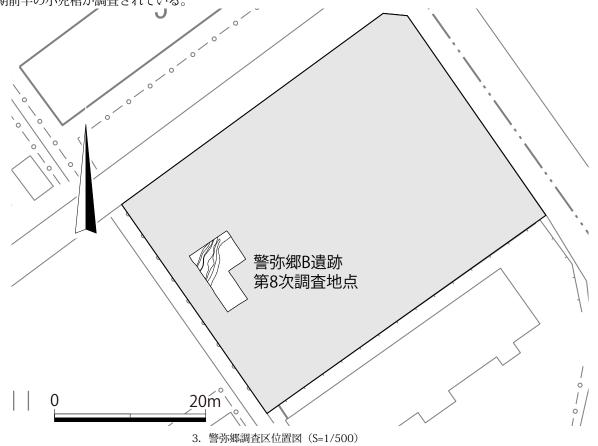


1. 調査地点の位置(41 警弥郷 0158 S=1/8000)

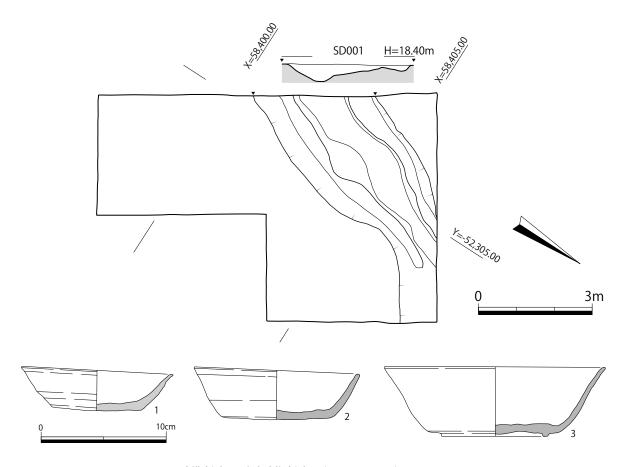


2. 調査区全景(北西から)

る所に位置する。調査地点の現地表面の標高は約  $18 \sim 20 \text{ mを測る。警弥郷 B 遺跡はこれまで 7 次にわたる調査が行われてきた。 3 次調査では弥生時代後期~終末期の手焙形土器が出土しており、 5 次調査では弥生中期前半の小児棺が調査されている。$ 



— 10 —



4. 遺構実測図・出土遺物実測図(S=1/100・1/3)

### 3. 遺構と遺物

以下、調査時に検出した1条の溝について報告する。 SD001 (4)

調査区の北西側で検出した。幅 1.55 ~ 2.8 m、検出面か ら底面まで深さ28~45cmを測る。狭い調査区であったが、 北西側の警弥郷B遺跡の中心地に向かい深くなる状況を示 している。所々に完形の須恵器2点を含む土器がみられたが、 遺物は散漫な状況を示す。時期としては古代である。

### 出土遺物(4・6)

図化できたのは須恵器3点であり、そのうち2点が完形で 5. 溝遺構全景(北西から) あった。1・2は完形の坏身である。1は口径12cm、高さ が3~3.5cmで焼成は良好、色調は暗灰褐色を呈す。2は口 径が 13cm、高さが  $3.6 \sim 4.1cm$ である。色調は灰褐色である。 底部にはヘラ切跡が確認できる。3は高台付きの坏身である。 口径は約 17.4cm、高さは 5.6cmであった。暗灰褐色を示し、 胴部は回転ナデである。

### 4. まとめ

今回の調査で検出できた遺構は古代の時期に属する溝のみ である。年代は750年前後の土器が出土している。





6. 出土遺物

# 1803 那珂遺跡群第 173 次調査 (NAK173)

所 在 地 博多区那珂 1 丁目 148、143

調査原因 共同住宅

調査期間 2018.4.16 ~ 2018.6.15

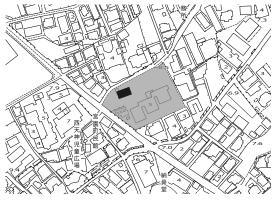
調査面積 301㎡ 担 当 者 清金良太 処 置 記録保存

### 調査の概要

那珂遺跡群は、福岡平野を北流する那珂川と、御笠川に挟まれた春日丘陵の北部に位置している。第 173 次調査地点は遺跡群の中央分東側に位置する。同敷地内の南側は第 67 次調査で一部発掘しており、弥生時代前期の環濠、弥生時代中期の甕棺・貯蔵穴、古墳時代後期の集落が確認された。

既存建物の基礎により広範囲に攪乱を受けるが、掘立柱建物1棟、竪穴住居3軒、土坑2基、井戸1基のほか、柱穴等の遺構を確認した。掘立柱建物、井戸については大部分が破壊されており、詳細な時期は不明確である。竪穴住居は古墳時代前期および古代の二時期の住居を確認した。出土遺物は、弥生土器、土師器、須恵器がコンテナ3箱出土した。

第67・173次調査地点は標高9.2m前後で、周辺より1m程度高い微高地に位置しており、環濠を設置する地形的条件に重要な知見を得ることができた。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0085 S=1/4000)



2. 調査区全景(西から)

# 1804 博多遺跡群第 220 次調査 (HKT220)

所 在 地 博多区冷泉町 430

調査原因 ホテル建設

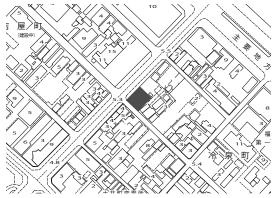
調査期間 2018.5.7 ~ 2018.8.7

調查面積 186㎡担 当 者 佐藤一郎処 置 記録保存

### 調査の概要

第220次調査地点は博多浜の中央よりやや北に位置し、地山の標高は2m前後を測る。現地表から-3mまで鋤取り、遺構検出に当った。古代の遺物包含層上面で検出した遺構は溝、井戸、土坑、木棺墓で、主に中世前半期に属する。土坑の多くは廃棄物処理のためとみられる。これらの廃棄土坑からは土師器小皿・杯、北宋後半の青磁・白磁碗・皿の他、陶器鉢・盤・壺、獣骨片等が出土した。12世紀後半の木棺墓は人骨、棺材組立ての鉄釘3が残存し、頭部左上面には供献された龍泉窯系青磁碗1・土師器小皿4が出土した。

本調査区は博多浜北側縁辺に位置し、周辺の調査状況や廃 棄物処理坑が多く検出されていることから、居住域からは外 れていたと推測される。



1. 調査地点の位置(49 天神 0121 S=1/4000)



2. 調査区全景 (東から)

# 1805 博多遺跡群第 221 次(HKT221)

所 在 地 博多区上川端町 97-1

調査原因 跡地活用事業 調査期間 2018.4.26 ~ 調査面積 703.5㎡

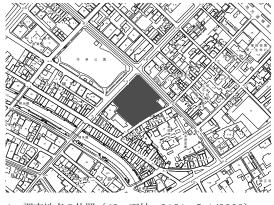
担 当 者 常松幹雄·井上繭子·三浦萌

処 置 調査継続中

### 調査の概要

第221次調査地点は、博多遺跡群の南西部、西側に向かう緩斜面にあたる。旧冷泉小学校跡地であり、付近は鎌倉時代に亀山法皇の勅願寺と伝わる大乗寺の跡とされている。旧校舎があった西端をI区として調査を着手した。右の写真はI区(標高約1.5 m)の遺構検出状況である。調査区の北側(冷泉公園側)で東西と南北方向の区画溝が確認された。溝からは南北朝時代の軒瓦や板碑とよばれる供養塔などが出土した。調査区東側では江戸前期の窪みから一字一石経や木製の祭祀具などが出土した。I区の東側に接するII区では室町時代頃の土坑や石組遺構、近世の土坑・井戸などを検出した。石組遺構には供養塔や石塔が再利用されており注目される。

遺物として「大乗」の墨書がある天目碗や「大乗寺」の文字のある軒丸瓦が出土した。これらは、大乗寺の関連資料として重要である。



1. 調査地点の位置(49 天神 0121 S=1/8000)



2. 調査区全景(南東から)

# 1806 山王遺跡第 14 次(SNN14)

所 在 地 博多区山王 2 丁目 18-5

調査原因 共同住宅

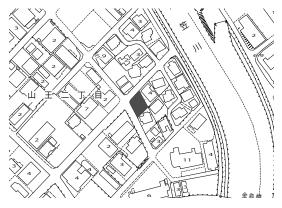
調査期間 2018.5.7 ~ 2018.6.21

調查面積 144.56㎡ 担 当 者 池田祐司 処 置 記録保存

### 調査の概要

第14次調査地点は山王遺跡の南東側に位置する。現況は標高6.2 mほどで、鳥栖ローム上面で遺構を検出した。検出した遺構は竪穴住居13棟+α、貯蔵穴、土坑、大型ピット等である。竪穴住居は2棟が平面円形を呈し、他は方形である。貯蔵穴は径80~150cmの円形で壁がハングするもの4基を確認した。土坑のうち長方形の浅い土坑からは弥生時代前末中初の小壺が正位置で出土した。調査区の北東寄りには、60cm大ほどの大型ピットは南北を軸にして並ぶ。出土遺物は小破片がほとんどで、弥生土器が主で鋤形口縁の甕・壺が多く、後期の遺物が少量出土した。この他に黒曜石(石鏃1点を含む)、須恵器・土師器椀・白磁片が数点ずつ出土した。

弥生時代中期から後期の集落跡で繰り返し住居が築かれて おり、大型のピット列は倉庫または大型の建物が想定される。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 2379 S=1/4000)



2. 調査区全景(東から)

# 1807 原東遺跡第 4 次(HRH4)

所 在 地 早良区飯倉4丁目522番1

調査原因 共同住宅

調査期間 2018.5.9 ~ 2018.5.22

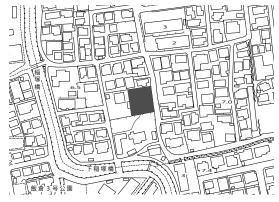
調查面積 76㎡担 当 者 上角智希処 置 記録保存

### 調査に至る経緯

平成29年12月27日付で上記地における埋蔵文化財の有無についての照会を受理した(事前審査番号29-2-865)。これを受けて、埋蔵文化財課事前審査係は申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である原東遺跡に含まれていることから、平成30年3月14日に確認調査を行った。確認調査では弥生時代の遺構が現地表下100cmで検出された。遺構の保全等に関して申請者と協議を行ったが、工事による埋蔵文化財への影響が回避できないため、基礎工事が行われる範囲について記録保存のための発掘調査を実施した。

### 調査の概要

杭打ち工事により遺跡が影響を受ける範囲(1区・2区)に限って発掘調査を行った。現地表-40cmに近年まで存続した水田面があり、その上はマサ土の盛土である。現地表



1. 調査地点の位置(82 原 0313 S=1/4000)

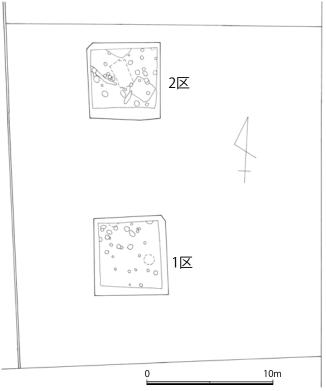


2. 作業風景(南東から)

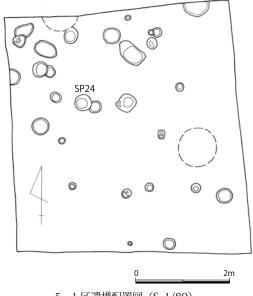
-100cm (標高 6.0 m) で橙色ローム層の遺構面を検出した。調査面積は上端で 76㎡、下端で 50㎡である。

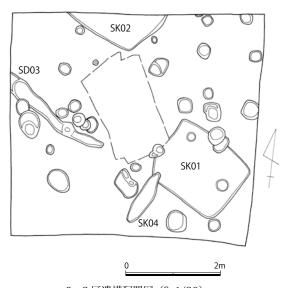


3. 調査位置図(S=1/2000)



4. 対象地と調査の範囲 (S=1/300)





5. 1 区遺構配置図(S=1/80)





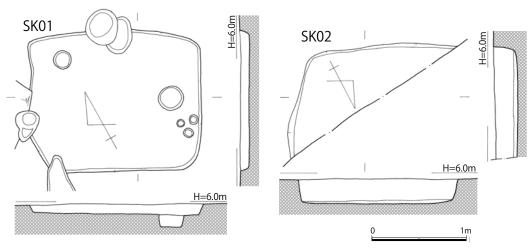
7. 1 区調査区全景(東から)



8. 2 区調査区全景(南から)

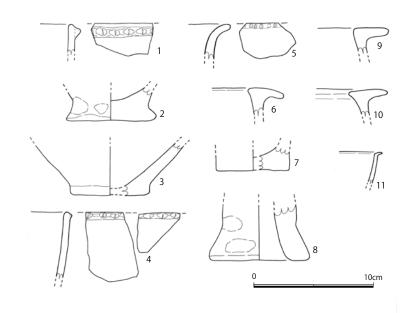
### 検出遺構と出土遺物

1 区ではピット約 20 基を検出した。 2 区では方形の土坑 2 基、溝 1 条のほか、ピット約 25 基を検出した。 遺構の大半は弥生時代のものである。遺物はコンテナ 1 箱分が出土した。



9. SK01 · SK02 実測図 (S=1/40)

SK01 は 1.8 × 1.5 mの方形土坑 で、検出面からの深さは10㎝程で ある。1は刻目突帯文土器の口縁部 である。2は甕の底部、3は鉢形土 器の底部である。SKO2 は長辺 1.7 m以上、短辺 1.2 m以上の方形土坑 で、深さは約25cmである。5は如 意形口縁で、口唇部に刻目を施す。 6はL字形の口縁部である。7は平 底の底部である。4は刻目突帯文土 器の口縁部で SK04 出土。 8 は弥生 土器の器台か。SP24 出土。9・10 は L 字形の口縁で、1 区包含層出土。 11 は白磁碗の口縁部で、2 区包含 層出土。中世の遺物はこの1点のみ で、ほとんどの遺物が弥生時代前期 から中期にかけてのものである。



10. 出土遺物実測図(S=1/3)

### まとめ

原東遺跡の既往の調査では弥生時代中期の甕棺墓 26 基が検出されている。本調査区においては甕棺墓が確認されなかったが、同時代の土坑・ピットが検出され、遺跡の広がりが確認された。



11. SK01 全景(南西から)



12. SKO2 全景(南東から)

# 1808 有田遺跡群第 265 次 (ART265)

所 在 地 早良区有田 2 丁目 20-8、20-9

調査原因 モデルルーム建設

調査期間 2018.5.21 ~ 2018.6.5

調査面積 192㎡ 担 当 者 屋山洋 処 置 現状保存

※対象地内未調査部分については遺構検出のみ

実施し、個別の遺構掘り下げは行っていない

# □ 有田西公園

1. 調査地点の位置 (82 原 0309 S=1/4000)

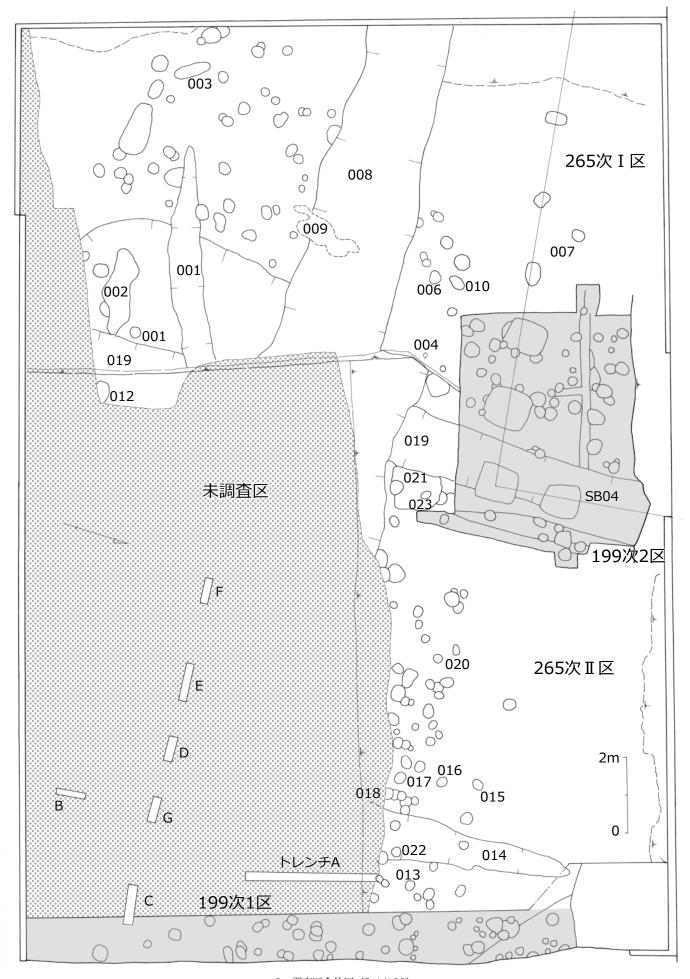
# 調査の概要

調査に至る経過

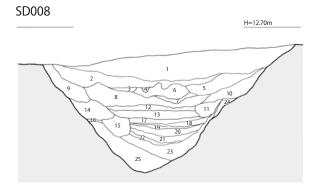
平成30年5月1日付けで埋蔵文化財の有無について申請(事前審査番号30-2-85)がなされた。建物部分の審査中に駐車場部分の掘下げに無断着手していたことが判明したため、工事を中断して対象地内の遺構の分布状況を確認することにした。調査の結果、北側道路に沿う幅5mの範囲内について遺構はほぼ削平され消



2. 周辺調査地点の位置 (S=1/500)



3. 調査区全体図(S=1/100)



### SD008

1. 暗褐色土 炭化物小片含む 鳥栖ローム下層土のブロック含む 2. 暗褐色土 14. 暗灰褐色粘質土

1cm程のロームと黒色土を少量含む 15. 灰茶褐色土 木の根による攪乱か 3. 暗褐色土 やや灰色を帯びる 16. 暗褐色土 白色粘土ブロックを含む

4. 暗褐色土 やや灰色を帯びる 17. 灰褐色粘質土 5. 暗褐色土 18. 橙白色土

鳥栖ローム下層土 6. 黄橙色土 鳥栖ローム下層土のブロック 19. 灰褐色粘質土 7. 暗灰茶褐色土 20. 橙白色土 鳥栖ローム下層土

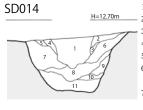
8. 褐色土 1cm以下のロームを多く含む 21. 灰色粘土 9. 暗褐色土 5㎜程のロームを少量含む

22. 暗灰色粘土 10. 暗褐色土 炭化物を少量含む 23. 灰茶褐色粘土

11. 暗灰褐色土 24. 暗褐色土 12. 灰茶褐色土 25. 暗灰茶褐色土

13. 白色粘土 (八女粘土) 鳥栖ローム下層土のブロック含む

### SD014



50cm

1. 暗茶褐色土 5mm以下のロームを多く含む 2. 暗茶褐色土 ロームわずかに含む

3. 暗茶褐色土 ローム含まない

4. 暗茶褐色土

5. 暗茶褐色土 1~2mmのロームを少量含む 6. 茶褐色土 10mm以下のロームを多く含む

ロームはやや層理的で左下がり

7. 暗橙色土

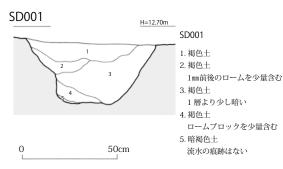
1cm以下のロームと黒色土の混合土 8. 橙色土 多量のロームが主。

1cm以下の黒色土を少量含む 9. 橙色土 ロームのブロックが詰まる

10. 灰褐色粘質土

11. 橙色土

鳥栖ローム下層土のブロックを主とする



### 4. 溝土層図 (008 は S=1/40、001・014 は S=1/20)

遺構番号	性格	土色	時代	遺物
0001	溝	明褐色土	古代末~中世	白磁碗V類片、白磁皿片、須恵器片(小片 甕、坏など)、土器片(小片 多 弥生~古代?)、黒曜石小片(6点)
0002	攪乱	明褐色土	近世~現代	染付碗(小片)、土器片(小片3点 不明)、黒曜石片(2点)
0003	土坑	黒色土	弥生時代?	土器片(小片1点 弥生時代か)
0004	PIT状遺構	暗茶褐色土	不明	土器片(小片2点 不明)
0005	PIT状遺構	暗茶褐色土 ロームブロック を多量に含む	不明	土器片(小片3点 不明)
0006	PIT状遺構	褐色土	不明	土器片(小片1点 不明)
	SB 柱穴	黄褐色ロームブロック	' ''	土器片(小片 1点 時期不明)
007上部ガラ	05 117	7(140		土器片(小片のみ 不明)
0008	溝	褐色土	中世	土管(近現代)、龍泉窯系青磁碗 I 類片、同安窯系青磁碗片、白磁碗IV類片、染付片、朝鮮陶器碗片、陶製擂鉢、須恵器大甕、須恵質脚(獣足?)、土師質火鉢?、土師坏片、土師質平瓦(縄目・ナデ)、土器小片(多 時期不明)
0009	攪乱	灰褐色土	現代	龍泉窯系青磁片、白磁碗片、瓦器椀片(12世紀頃)、土器片(小片 不明)、黒曜石片
0010	PIT状遺構	黒褐色土	不明	土器片(小片1点 不明)
0011	PIT状遺構	黒褐色土 ロームブロックを 多量に含む	古代?	須恵器坏(6C後半?)、土器片(小片 弥生~古墳時代)、黒曜石片
0012	攪乱	明褐色土	不明	陶器皿?片(小片 不明)、土器片(小片1点 不明)
0013	柱穴	暗橙色(柱痕あり)	不明	土器片(小片2点 不明)
0014一段下			古代	黒曜石片(1点)、須恵器大型器台?(波状文 小片2点 古墳時代後期)、土器片(小片2点の
	溝	黒褐色土 ロームブロックを 少量含む	古代	黒曜石(石器? 1点、剥片4点)、安山岩(石器? 1点)、須恵器(坏蓋?、坏、甕、その他)、 土器片(弥生~古代?)、
0015	PIT状遺構	暗褐色土 焼土ブロック含	不明	土器片(小片2点 不明)
0016	PIT状遺構	黒褐色土	不明	土器片(小片1点 不明)
0017	PIT状遺構	暗茶褐色土 ロームブロック を少量含む	不明	黒曜石片(1点)、須恵器大型器台?(波状文 小片2点 古墳時代後期)、土器片(小片2点のみ)
	PIT状遺構	黒褐色土 ロームブロックを 少量含む	不明	土器片(小片のみ 不明)
0019一段下				土器片(小片のみ 弥生~古墳)
0019上部ガラ		灰色土		黒曜石片(1点)、土器片(弥生~古代?)
0019	溝	黒褐色土 ロームブロックを 多量に含む	弥生~古墳時代	土器片(小片のみ 弥生~古墳)
	PIT状遺構	橙色土 黒色土ブロックを多く含む	不明	焼粘土塊(小片 1点 不明)
0021一段下	土坑		古代末以降	黒曜石(剥片 1点)、土師皿(糸 小片1点)、土器片(小片のみ)
0021	土坑	黒褐色土 ロームブロックを 多量に含む	不明	
	PIT状遺構	黒色土 炭化物と焼土ブロックを含む	不明	焼粘土塊
0023	PIT状遺構	褐色土 炭を含む	不明	黒曜石片(1点)、土器片(小片のみ 不明)
Bトレンチ				白磁碗片、須恵器甕片、土師皿(ヘラ?)、土器片(不明)
I区検				白磁片(小片1点)、須恵器片(小片4点 1点は甕?)、土器片(小片多 不明)、鉄片(鉄滓?)、 黒曜石片(小片2点)
Ⅱ区検				陶器盤?(小片)、土師坏(糸 小片)、土師皿(糸 小片)、土師質甕(古代)、土器小片

滅していることを確認した。

### 調査の概要

本調査地は199次調査と同じ敷地で、北西側に傾斜する斜面上に位置する。北側に面する道路は本地点より1m程低く、199次調査では車両出入口部分のスロープと東縁側の塀の基礎部分について発掘調査を行った(調査番号0036、福岡市埋蔵文化財調査報告書第870集)。

今回の265次調査は工事中断時にこれ以上の掘削はしないと事業者が確約したことから、遺構の保護のため調査は遺構検出のみとし、確認のために3cm前後掘り下げるとしたが、溝(001、008、014)の3条は断面確認のためトレンチ状に底面まで掘下げた。遺構の一段下げとトレンチから出土した遺物が表1である。

今回の 265 次調査で新たに確認された溝は SD001 と 008 である。SD014 は 181 次(調査番号 9607、福岡市埋蔵文化財調査報告書第 574 集)の SD001 と同一の溝である。SD001 は断面逆台形で幅 58cm、深さ 30cmを測る。白磁碗 V 類や白磁皿の小片が出土しており、現状では古代末頃と推定される、SD008(幅 3m、深さ約 1.2m)は東西方向の溝で、埋土が褐色と他の遺構 (多くが黒色)とは異なる。トレンチから染付片や朝鮮系陶磁、陶器擂鉢、龍泉窯系青磁碗などが出土した。この溝は前回の 199 次調査 1 区では出土していない。確認のため未調査区に設定したトレンチで溝の続きを確認したところ E では底面までの深さが 50cm、D で 30 cm、G が 20cmと次第に浅くなり、A・C では直下で鳥栖ロームに達していて溝が東端までは延びないことが判明した。

その他では 188 次調査 (調査番号 9759、福岡市埋蔵文化財調査報告書第 608 集) の SD02(本調査の 019) は今回調査区南端でも確認し南側に延びることが判明した。断面逆台形で幅 60cm、深さ 35cmを測る。SD019 の西側で竪穴式住居の可能性がある掘り込みを確認した。遺構の掘下げをしていないため深さなどは不明である。

### まとめ

今回の調査では削平を受けてない部分は柱穴などが密に分布することが判明した。また 199 次調査の SB04 と SD02(265 次 019) の続きを確認した他、東西方向の溝である SD008 を確認した。 SD008 は東側に延びないことは判明したが、調査区東端部が端なのか、南に屈曲するかは不明である。

今回の調査では遺構の掘り下げはトレンチ等の一部しか行っていないので、今後掘り下げを伴う工事については発掘調査が必要となる。



6. SK01 全景(南西から)



7. SKO2 全景(南東から)

# 1809 田村遺跡第 27 次 (TMR27)

所 在 地 早良区田村 3 丁目 755-1,757-1

調査原因 公民館建設

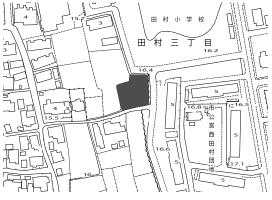
調査期間 2018.6.1 ~ 2018.9.6

調査面積 858㎡担 当 者 荒牧宏行処 置 記録保存

### 調査の概要

第27次調査地点は室見川右岸の沖積地に位置する。中世の遺構面は現況の水田面から40cm下の標高15.6mを測る。出土した遺物の時期は11世紀後半から13世紀代とみられ、12世紀代が多い。主な遺構は掘立柱建物跡13棟以上、井戸3基、鍛冶炉2基、土壙9基、大溝1条のほか溝4条、などである。13世紀初頭頃に埋没したと考えられる大溝は条理方向に沿って、南北に直線的に延長していく。その規模はおよそ幅7.0m、深さ1.1mを測り基幹水路と考えられる。また、水流を調整した突堤状の「出し」や、船着場の可能性がある階段状の石列も検出された。皇室御領(摂関家領)の寄進地系荘園である「野芥荘」に含まれているとみられる。

中世遺構面より以下の層位からは縄文中期に遡る阿高系土器の底部が出土した。



1. 調査地点の位置(93 都地 0317 S=1/4000)



2. 大溝全景(北から)

# 1810 弥永原遺跡第 14 次 (YNB14)

所 在 地 南区柳瀬 1 丁目 134 番 2

調査原因 個人住宅

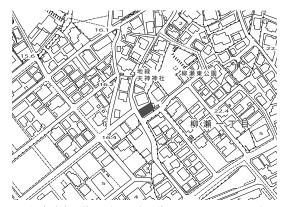
調査期間 2018.6.18 ~ 2018.6.27

調査面積 74㎡ 担 当 者 板倉有大 処 置 記録保存

### 調査の概要

### 1. 調査に至る経緯

図1の弥永原遺跡包蔵地内対象地(129.57㎡)について、平成30年5月18日付けで「埋蔵文化財の有無について(照会)」「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された(受付番号30-2-131)。照会・届出を受理した埋蔵文化財課事前審査係は、住宅の基礎工事が埋蔵文化財に影響を与える可能性を考慮し、同年5月31日に現地での確認調査を実施した(試掘番号30-48)。その結果、対象地のGL-25cmで土器小片と柱穴を確認したため、住宅基礎工事が埋蔵文化財に影響を与える場合は発掘調査が必要であることを回答した。埋蔵文化財の保護について事業者と協議した結果、事前に国庫補助事業として記録保存のための発掘調査を行うこととなった。対象地の国土座標は、東経130度26分16秒、北緯33度32分2秒(世界測地系)である。



1. 調査地点の位置(26 上曰佐 0105 S=1/8000)



2. 1区全景(北東から)

### 2. 調査の方法

表土掘削は小型重機で行った。掘削排出土を敷地内に仮置きするため、調査区を1区(北側)と2区(南側)に分けて掘削・調査を行った。

1区の調査の結果、東側丘陵側が大きく段造成されて遺構が残っていない状況であったため、2区の東側は調査を省略した。標高値は敷地北東の3級基準点10C21から移動した。遺構の掘削は発掘作業員7名で行った。調査区周辺測量図(S=1/50)、遺構実測図(S=1/20)の作成、遺構写真撮影は板倉が行った。遺構番号は、遺物が出土した遺構(攪乱含む)に通し番号を付した。

遺物は小型コンテナ半箱分が出土した。整理作業については、遺物実測を中原三栄子が行い、遺構・遺物トレース、報告執筆は板倉が行った。

出土資料および記録類は、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵される予定である。

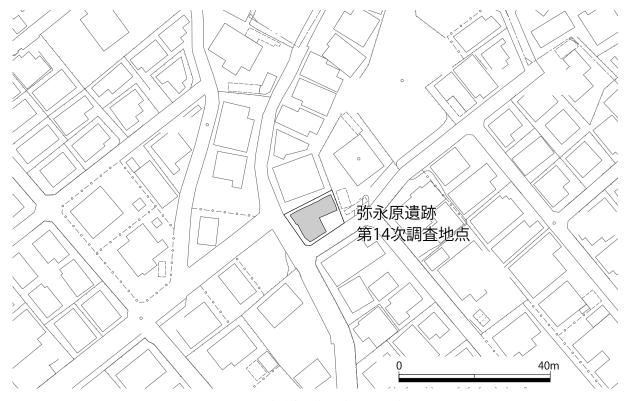
### 3. 調査の概要

対象地は春日丘陵の西側に形成された段丘の南西向き斜面、標高約 17.5 mの地点に位置している。基盤層は阿蘇 4 火砕流(八女粘土)で、西側には那珂川が北流し、老司・警弥郷・曰佐の沖積平野が広がる。対象地周辺のこれまでの発掘調査では、弥生時代の集落や墓、古墳時代の集落などが発見されている。

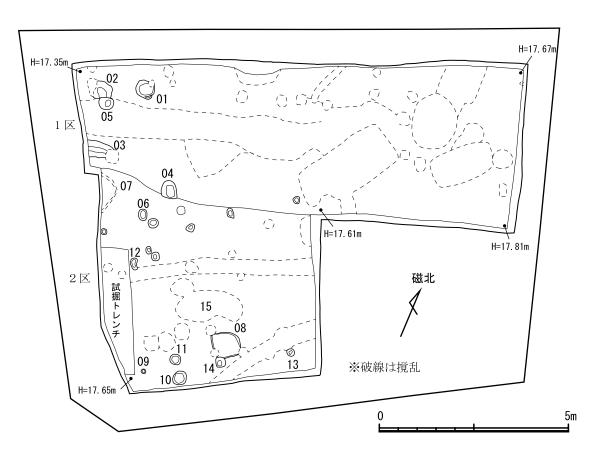
今回の調査では、対象地の西側を中心に、柱穴が 10 数基確認された。柱穴は、円形と隅丸方形の 2 種類があり、摩滅した土師器小片が出土した。柱穴の埋土は、径 1 cm 以下の炭粒を含む暗褐色 10 YR3/4 粘質土、にぶい 黄褐 10 YR $4/3 \cdot 5/4$  ~褐色  $4/4 \cdot 4/6$  のシルト質粘土などである。地山は明黄褐色 10 YR6/6、にぶい黄褐色 10 YR7/4、浅黄色 2.5 Y7/3 粘土である。

土師器類は小片で詳細は不明だが、遺構 15(攪乱)から、底外面に刻書を持つ8世紀代の須恵器高台坏が出土した(5.出土土器実測図)。

遺構面を削平していた攪乱からは、「IKARI SAUCE CO」銘、「SUNSTAR」銘、「石」銘のガラス瓶、「siboley」「ROD NO 96532」銘、「お染」「白百合香油」銘、「濟生製薬」「濟生マーキロ」銘、「SASAOKA CO.」銘、「麗眼水」「肥前神崎」銘のガラス製容器、「AOKI」銘の磁器製部品、「FUTABA SWITCH F-1014」銘のプラスチック製部品、土管など、戦後の生活用品が出土した。



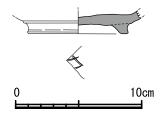
3. 調査地点の位置 (S=1/1000)



4. 遺構全体図 (S=1/100)

### 4. 調査の成果

遺跡が残されていた西向きの斜面は、戦後に切土造成されたと考えられる。遺構の残りは悪く詳細は不明と言わざるを得ないが、8世紀代の須恵器や土師器、柱穴が確認されたことから、この時期に丘陵斜面の利用があったと推定される。これらの資料は、地域の歴史を復元するための貴重な財産であるので、今後も周辺の開発工事には注意が必要となる。



5. 出土土器実測図 (S=1/3)



6. 2区全景(北から)



7. 2区全景(東から)

# 1811 青葉遺跡第1次(AOB1)

所 在 地 東区青葉 1 丁目 317.307-1

調查原因 区画整理事業

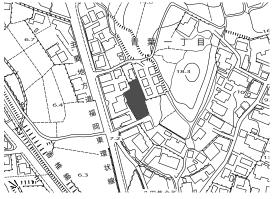
調査期間 2018.6.25 ~ 2018.9.25

調查面積 338㎡担 当 者 清金良太処 置 記録保存

### 調査の概要

第1次調査地点は青葉遺跡内の南西側に位置する。周囲での発掘調査の事例は無く、今回が初めての調査となった。 1次調査の範囲は東側の緩斜面に位置しており、基盤層である第三紀層風化土が地山となる。調査は I・II 区の順で行い、I 区西側では遺物包含層下で遺構を確認した。 I 区で竪穴住居 1 棟、掘立柱建物 1 棟、II 区では竪穴住居 3 棟、土坑 1 基を検出した。遺物包含層からは弥生時代の甕棺片とともに弥生土器、土師器、須恵器、中世の陶磁器が出土した。

第1次調査であり、周辺地域の様相解明の1歩となった。周辺では古くから開墾による造成が行われており、遺構を把確認きなかったが、丘陵縁辺部には遺構が残っていることが確認できた。また、包含層には弥生土器・甕棺等の遺物が含まれており、周囲には弥生時代の集落遺跡が存在していたことが伺える。



1. 調査地点の位置(7 八田 2618 S=1/4000)



2. 調査区全景(西から)

## 1812 高節遺跡第 1 次 (TKF1)

所 在 地 東区下原 4 丁目 907 番 6

調査原因 擁壁工事

調査期間 2018.8.1 ~ 2018.8.9

調査面積 105.0m<sup>2</sup>

担 当 者 木下博文・上角智希・板倉有大・松﨑友理

田上勇一郎・中尾祐太・中園将祥

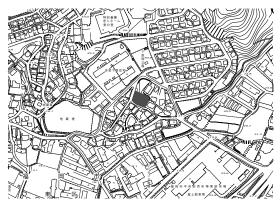
処 置 記録保存

### 調査の概要

### 調査に至る経緯

平成30(2018)年7月20日付で、個人より福岡市東区下原4丁目907番6地内における擁壁工事に伴う埋蔵文化財有無の照会(30-2-368)があった。

申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である高節遺跡の範囲内であり、高節1・2号墳の墳丘部が残存することが過去の試掘調査で指摘されていた。申請地と東側民有地との境は崖面であったが、平成30年7月の豪雨により、一部崩落していた。この範囲について二次災害防止のため擁壁を構築することとなった。防災工事予定範囲が高節1号墳の墳丘南端部にかかるため、同年8月1日より発掘調査を実施した。対象地内全域の現況地形測量後、重機による表土剥ぎを実施した。その後、遺物包含層の人力掘削・遺構検出、重機掘削による地山面の最終確認を行い、調査を終了した。



1. 調査地点の位置(16 唐原 2741 S=1/8000)



2. 第1次調査区全景(掘り下げ前・北から)

### 遺跡の位置と環境

高節遺跡は福岡市内北部、JR九産大前駅の東方800 m、現標高30 m前後の丘陵部に位置する。一帯は宅地造成が進んでいる。今回の調査地点は遺跡範囲の北半に位置し、平成14年度の試掘調査により、古墳2基の存在が指摘されている。遺跡内で旧地形を残す数少ない地点である。申請地内は北東から南西方向に傾斜し、標高の最高は31.2 m、最低は25 m弱である。最高部になる北東隅に高節1号墳、その南西に同2号墳が位置する。

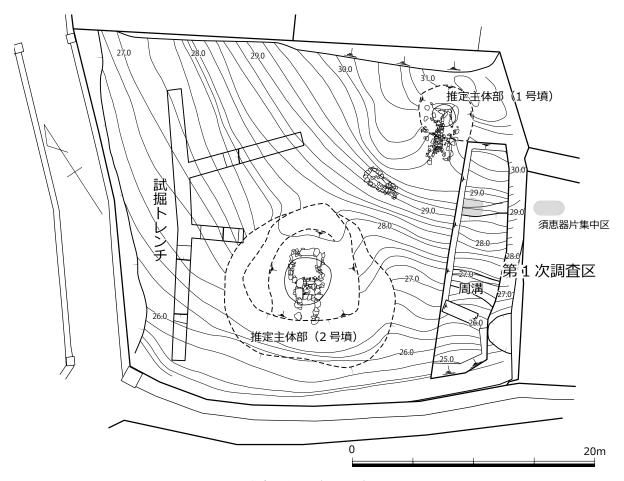
3. 第 1 次調査地点位置図(S=1/2000)

### 検出遺構と出土遺物

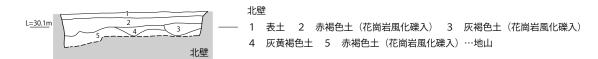
調査の結果、表土直下 10cm で地山の赤褐色土に由来するとみられる土層面を検出した。南北方向の調査区

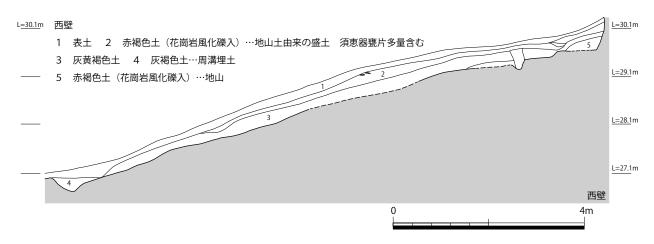
のうち、墳丘部と目される北半では標高 29.0 m付近においてわずかな平坦面を成し、須恵器甕の破片がこの面の直上に散布していた。反対に谷となる南半ではほとんど遺物が出土せず、明確な差が確認された。

また調査区西壁の土層断面を精査し、標高27 m付近で周溝状の落ち込みを検出した。幅1.7 m、深さ0.1 mである。出土遺物は須恵器である。1 は接合の結果残存高86.4cm、口径44.0cm、胴部最大径39.1cmの大甕に復元できた。外面は褐灰~黒色、内面はにぶい褐色を呈し、焼成は良好である。胎土は3 mm以下の石英・長石粒を含む。調整について、外面は口縁部直下にヘラ状工具による2段の細い刻み目、体部に細い平行タタキを施す。内面は口頸部が回転なで、体部は平行の当て具痕を施す。1号墳墳丘の中段を中心に出土した。2は口頸部で、外面は灰色、内面は黄灰色を呈し、外面に2段の波状文を施す。周溝埋土から出土した。

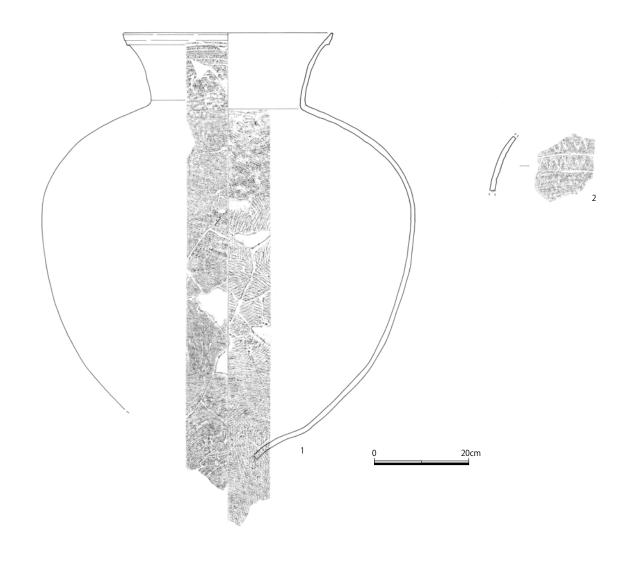


4. 調査区平面図(S=1/300) ※図化した石室は1910 高節遺跡第2次調査の調査成果に基づく





5. 調査区土層実測図(S=1/50)



6. 出土遺物実測図(S=1/8)

### まとめ

以上の点から、調査区内には地山整形後、須恵器甕片を含む厚さ 10cm 程度の土層が全面を覆う、高さ 4 m 余りの古墳の円丘部が残存していることが確認できた。古墳の時期については、出土した須恵器甕片から古墳時代後期の可能性がある。今回は主体部を調査していないため、墳形・規模など性格付けは後日の調査に委ねたい。 ※対象地については平成 30 年 10 月 26 日付で宅地造成に先立つ事前審査申請を受け、平成 31 年 4 月 22 日より発掘調査を実施した(高節遺跡第 2 次調査 調査番号 1910)。調査の結果、調査面積 544㎡から円墳 3 基と石室 3 基を確認した。



7. 調査区作業着手前状況(南から)



8. 調査区作業着手前状況(北から)



9. 表土掘削作業状況(北から)



10. 発掘調査作業状況(北東から)



11. 調査区内須恵器片出土状況(南から)



12. 調査区北壁土層断面(北東から)



13. 調査区西壁北半土層断面(北東から)





15. 1号墳墳丘裾周溝(南から)



16. 調査区西壁 1号墳周溝土層断面(東から)





17. 出土遺物



# 1813 蒲田部木原遺跡群第 13 次(KHH13)

所 在 地 東区蒲田 3 丁目 742 他

調査原因 物流倉庫建設

調査期間 2018.8.1 ~ 2019.4.30

調査面積 4423㎡

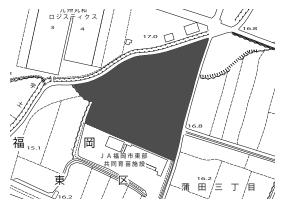
担 当 者 池田祐司・加藤良彦・神啓崇

処 置 記録保存

### 調査の概要

蒲田部木原遺跡は、若杉山から西に延びる台地の先端および、前面の沖積地に所在する。第13次調査地点は遺跡範囲中央部に位置する。検出遺構は弥生時代前期の土坑、弥生中期~古墳時代後期の竪穴建物・土坑・柱穴多数、古墳後期の溝で、主体は弥生中期、総数7200基を数える。遺構には伴わないが、縄文時代後期・晩期の土器も出ており、それ以前から生活の痕跡がうかがえる。弥生前期~中期初頭の土坑は、炭・焼土を含む埋土のものが多い。特筆すべき遺構として、弥生中期に属する径12.5mの大形円形竪穴建物を確認した。壁溝・主柱穴が複数切りあうため、建て替えが想定できる。

遺物は、各時期土器のほか、石器(石斧・工具類・石剣・石鏃・石包丁)、投弾、玉類、鉄斧などがコンテナケース 520 箱分出土した。



1. 調査地点の位置(2 蒲田 0003 S=1/4000)



2. 調査区全景(東から)

# 1814 福岡城跡第 77 次(FUE77)

所 在 地 中央区城内1番1、1番4

調査原因 史跡整備(潮見櫓跡)

 $2018.8.2 \sim 2018.9.28$ 

調查面積 30㎡

担 当 者 赤坂亨·藏冨士寛

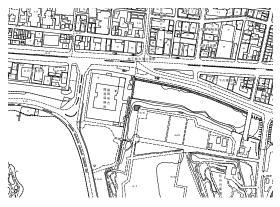
処 置 現状保存

### 調査の概要

調査期間

福岡城跡第77次調査は福岡城潮見櫓跡の史跡整備に先立つ調査である。調査では、櫓に用いられた礎石および石垣の遺存面を検出した。礎石は大半が櫓の移築先へ搬出されたと推測され、現位置を保ったまま検出できたのは3石のみであった。また、石垣は櫓跡に残る礎石の上面との比高差から、少なくとも1~1.5m、高さ35~45cmの石材で3段から4段分が失われていると推測される。また、北・西面石垣の根石と勾配、傷みの確認も行った。遺物は近世瓦・陶磁器などコンテナ50箱分が出土した。

なお、当初予定していた祈念櫓および中天守石垣について は傷みが激しく、発掘調査によって損壊する可能性が高いこ とが判明したため、表面観察にとどめることとした。



1. 調査地点の位置(60 舞鶴 0193 S=1/8000)



2. 調査区全景(南から)

# 1815 野芥遺跡第 17 次(NKE17)

所在地 早良区野芥 4 丁目 679-1、680-1、680-3

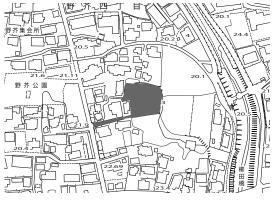
調査原因 共同住宅

調査期間  $2018.8.2 \sim 2018.8.3$ 調查面積 84㎡ (工事面積 334.45㎡)

担当者 朝岡俊也 処 置 記録保存

### 1. 調査に至る経緯

平成30年3月27日付けで、当該地における埋蔵文化財 の有無についての照会文書が提出された(事前審査番号 29-2-1122)。計画は共同住宅の建築である。2018年7月9日 に現地での確認調査を行い、地表下約80cmの灰白色砂質 土 (細砂) 上面で遺構を検出した。基礎工事は当初、客土内 に収まると考えられたが、7月31日に工事立会を行ったと ころ、遺構面の露出を確認した。そこで先方と協議を行い、 遺構の露出した範囲で発掘調査を行うこととした。なお、遺 構は表層改良に伴う掘削により露出したため、掘削が及ばな い深さは遺跡が現状保存される。よって調査は上面の記録と、 溝のトレンチ調査を基本とし、表土掘削は本体工事用の重機 での現物提供で行い、遺構の精査・掘削・記録等は作業員を 雇用せず、全て埋蔵文化財課職員が行った。調査は2018年 8月2日に着手し、同年8月3日に終了した。



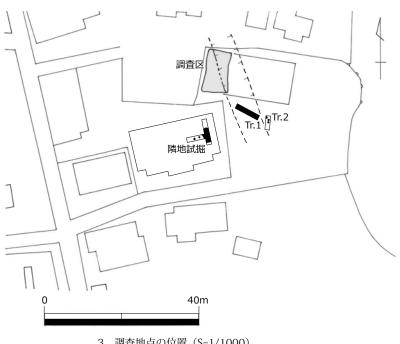
調査地点の位置(83 野芥 0319 S=1/4000)



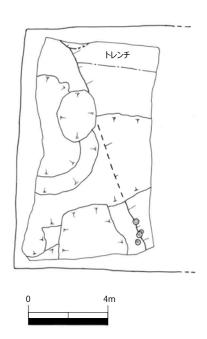
2. 第17次調査地点 調査区全景(南東から)

### 2. 位置と環境

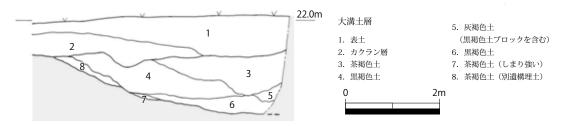
野芥遺跡は福岡市西部を南から北に流れる室見川等により形成された早良平野の東部に位置し、油山山系か ら南北に細長く伸びる低丘陵に立地する。遺跡西側には水路が、東側には南北に油山川が流れ、油山川を挟ん で東が早良平野の東端を画す飯倉丘陵となる。野芥遺跡の低丘陵の大部分はこの油山川の沖積作用によるもの と考えられる。



3. 調査地点の位置 (S=1/1000)



4. 遺構実測図 (S=1/200)



5. 大溝遺構土層断面図(S=1/80)



6. 調査地点全景(東から)



7. 調査作業風景(南東から)



8. 調査南東隅部遺構検出状況(北から)



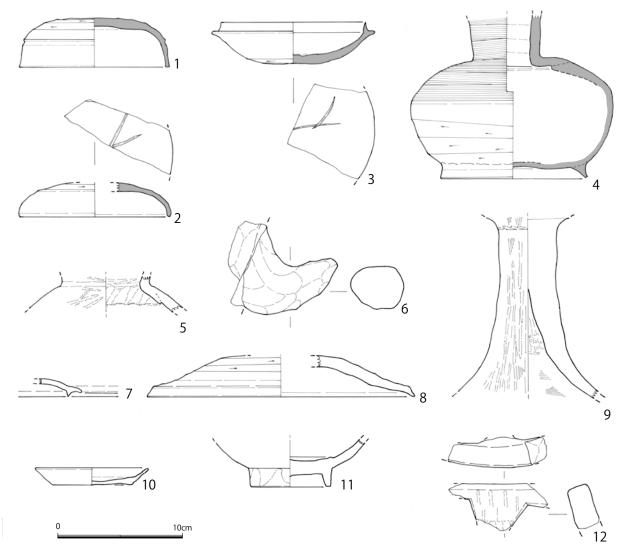
9. 大溝掘削状況(南東から)

### 3. 調査の記録

地表面下  $70 \sim 100$ cm で古墳時代に属する大溝と、柱穴を検出した。柱穴は西隣の確認調査の成果から、中世前期(12 世紀代か)のものとみられる。遺構面の標高は  $21.2 \sim 21.5$ m で北側がやや低い。

大溝は調査区内では西側上端のみを検出し、幅 4.5m 以上・深さ 1.3m 以上となる。調査区内での溝の方向は北北西—南南東方向を採る。土層図は調査区北壁でとったため、溝に直交する断面ではない。確認調査(トレンチ 1)は完全に溝内を掘削しており、地表面から 170cm、遺構面から 90cm の深さでおおよそ幅 2m となった。東側のトレンチ 2 では大溝は検出されず、地表下 80cmで柱穴等を確認しており、試掘トレンチ 1 ・ 2 との位置関係から大溝を復元すると上面での幅は  $7\sim8$ m 程度と復元できる。

出土遺物はコンテナケース 1 箱分が出土した。前述のように大溝以外の遺構は検出のみに留めたため、遺物の多くは大溝から出土したものである。 $1\sim6$  が大溝出土、 $7\sim12$  が遺構検出時や試掘トレンチ出土である。 $1\sim4$  は須恵器。 $1\cdot2$  は坏蓋で、3 は坏身。 $2\cdot3$  にはヘラ記号がある。4 は長頸壺。 $5\cdot6$  は土師器。5 は壺で、内面頸部および外面にミガキ状の強いナデがみられる。6 は甑の把手である。



10. 出土遺物実測図 (S=1/3)

7 は須恵器の坏蓋。8 は土師器で、蓋として作図したが、高坏の坏部の可能性もある。9 は弥生土器の高坏で、外面丹塗り。10 は土師器皿で、口径 9.0cm。11 は白磁碗高台部片である。一部畳付まで施釉する。12 は滑石製石鍋の再加工品で、口縁部を T 字に加工している。

### 4. まとめ

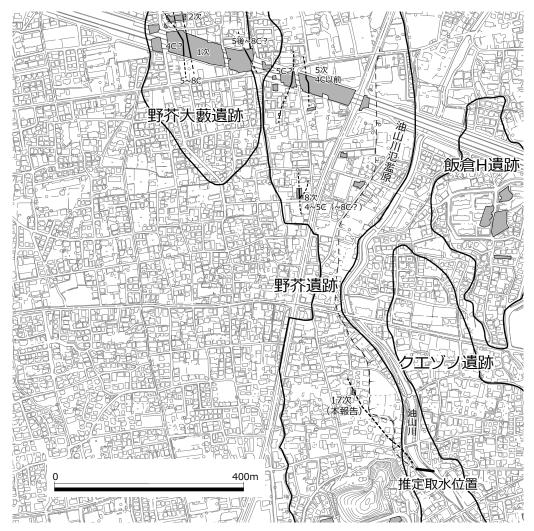
大溝の時期は、1の須恵器から少なくとも5世紀末~6世紀初頭には掘削され、8世紀までは継続している可能性が高い。5の土師器は1よりも古い可能性があり、また最終的な埋没時期は中世まで下る可能性がある。溝の性格は、地山が砂質で保水性にやや不安があるが、周辺の確認調査等で同時期の集落は確認できないことから区画溝の可能性は低く、灌漑用水路の可能性が考えられる。

遺跡北側の調査区では8次調査で古墳時代前期に掘削された可能性が高く、少なくとも中期後半まで使われた分岐する南北方向の水路が検出され、ミニチュア土器や土製模造品、滑石製有孔円盤などの祭祀具が多数出土した。また5次調査では古墳時代前期中頃~中期前半の住居群とそれに切られる古墳時代前期以前の旧流路、古墳時代中期とみられる小溝(水路か)が検出され、西側に近接する野芥大藪遺跡1・2次調査でも古墳時代中期後半~奈良時代の遺物が出土する水路と旧自然流路が検出され、古墳時代中期後半の開発によりそれまでの集落域が水田に変わると推測されている。

今回検出された大溝が水路であるならば、東側の油山川から取水し、野芥遺跡の低丘陵を横断して西側の平野

部を灌漑したものとなる。よって、大溝は野芥遺跡北側や野芥大藪遺跡での古墳時代中期の水田開発の契機として掘削されたとも考えられる。全国的にも古墳時代中・後期の水路開発の事例が散見され、渡来人との関わりも注目されており(朝岡 2020)、クエゾノ遺跡や梅林遺跡との関連も示唆される。(文責:朝岡)

朝岡俊也 2020「日本考古学における水路研究の手法―弥生時代~中世―」『福岡大学考古学論集 3』



11. 周辺遺跡検出遺構図(S=1/8,000)



12. 大溝立ち上がり部(南東から)



13. 調査区遺構検出状況(北東から)

# 1816 那珂遺跡群第 174 次 (NAK174)

所 在 地 博多区那珂 6 丁目 313 番 1,314 番 1,315 番 1

調査原因 建物解体

調査期間 2018.8.6 ~ 2019.1.18

調査面積 1309.8㎡

担 当 者 屋山洋·三浦悠葵

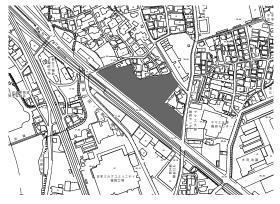
処 置 記録保存

### 調査の概要

那珂遺跡群は、福岡平野中央を流れる御笠川と那珂川に挟まれた低丘陵地上に立地する。本調査地点は遺跡群の南端に位置しており、調査地北西側に近接する第37次調査地点では弥生時代早期の二重環濠などが検出された。

今回の調査では溝、掘立柱建物、竪穴住居、貯蔵穴、柱穴、 土坑などを検出した。溝と掘立柱建物はその多くが真北を基準に地割を行い築造されている。遺構の時期は6世紀末から7世紀、11世紀から12世紀の二時期に集中しており、その他に弥生時代中期の甕棺墓、15から16世紀の溝を検出した。遺物は弥生土器、甕棺、埴輪、土師器、須恵器、初期瓦、瓦器椀、白磁、青磁、石製の玉類、石鍋などがある。

以上から、本調査地点を含む近辺は弥生時代から中世にかけて集落として利用されていたことが判明した。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0085 S=1/8000)



2. 調査区全景(西から)

# 1817 箱崎遺跡第88次(HKZ88)

所 在 地 東区箱崎 6 丁目 10-1 調査原因 学術研究(HZK1801) 調査期間 2018.5.21 ~ 2018.11.8

調査面積 700㎡

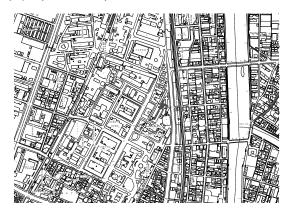
担 当 者 九州大学埋蔵文化財調査室

処 置 記録保存

### 調査の概要

調査地点は、九州大学箱崎キャンパス内東部、旧船舶海洋工学実験室建物北側に位置する。昭和初期の地図では墓域となっており表土からは近世銘の墓石等が出土する。九州大学が設置された際に広範囲に造成されており、造成以前の旧表土以下 150cm 程度の地点から甕棺 50 基、桶棺に埋葬されたとみられる例を含む人骨散布 40 地点などを検出した。甕棺内からは土師皿や六道銭・キセルに加え、サイコロや手鏡などの豊富な生活用具が出土している。甕棺内に穴を穿った方形の板を敷き、遺体を安置した例が多く見られた。

このような副葬品の豊富さは、福岡平野内陸部でみられる 近世墓とは異なっており、本調査地点を含む周辺近世墓の特 徴ともいえる。



1. 調査地点の位置(34 箱崎 2639 S=1/8000)



2. 調査区全景 (西から)

# 1818 比恵遺跡群第 152 次(HIE152)

所 在 地 博多区博多駅南 4 丁目 220 の一部

調査原因 共同住宅

調査期間 2018.8.27 ~ 2018.10.11

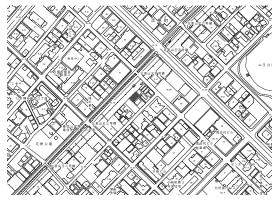
調查面積 116㎡ 担 当 者 上角智希 処 置 記録保存

### 調査の概要

本調査地点は比恵遺跡群中央部北側に位置する。共同住宅 建築予定範囲について調査を実施した。調査に先立って実施 した確認調査においては、鳥栖ローム層上面で遺構が確認さ れており、この層位を調査対象としている。

比恵遺跡群内の近接する他の調査地点と同様に、調査範囲内の遺構密度は濃く、116㎡の調査範囲から弥生時代の貯蔵穴4基、竪穴住居跡6基のほか、弥生時代から古代にかけての掘立柱建物、土坑など多数の遺構が検出された。貯蔵穴は断面形がフラスコ状となる形式で、検出面から底面までの深さは1.5mを測る。

遺物は弥生時代から古代にかけての弥生土器・土師器・須 恵器など、コンテナ7箱分が出土した。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0127 S=1/8000)



2. 調査区全景(南西から)

# 1819 有田遺跡群第 266 次(ART266)

所 在 地 早良区有田 1 丁目 32-6、32-7

調査原因 戸建住宅

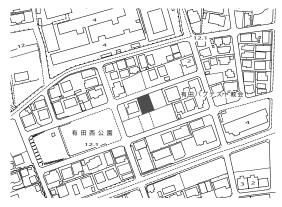
調査期間 2018.9.10 ~ 2018.9.20

調査面積52㎡担 当 者松崎友理処置記録保存

### 調査の概要

本調査地は有田・小田部台地の一番広い平坦面を持つ有田台地の中央やや西寄りに位置する。調査は駐車場切り下げ範囲のみ実施した。調査区内は地表面から深さ30cmで褐色の鳥栖ローム層に達し、遺構面の標高は約12.80m前後である。

検出した遺構は竪穴住居跡 1 軒、総柱建物跡 1 棟、溝 1 条、ピットである。竪穴住居跡は東西方向で 5.4 m以上、南北方向で 2.2m以上を測る。西側に L 字のベッド状遺構、南側に屋内土坑と考えられる土坑を 1 基検出した。床面までの深さは約 20cm で、その下に 8~10cm 程度貼床が確認された。土師器や鉄族などが出土しており、古墳時代初頭と推定される。総柱建物跡は 2 間× 2 間以上で、柱の間隔は約 1.4m を測る。柱穴の平面はいずれも円形で、出土遺物が土器細片のみのため、時期は不明である。



1. 調査地点の位置(82 原 0309 S=1/4000)



2. 調査区全景(東から)

# 1820 田村遺跡第28次(TMR28)

所 在 地 早良区田村 2 丁目 706 番 1、708 番 7

調查原因 宅地造成

調査期間 2018.11.5 ~ 2019.3.22

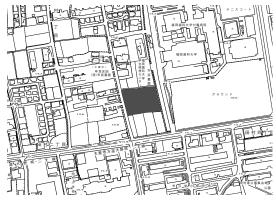
調查面積 843 m 担 当 者 上角智希 処 置 記録保存

### 調査の概要

田村遺跡は早良平野を流れる室見川の中流域に位置する。 縄文時代晩期,弥生時代、中世を主体とした複合遺跡である。 また本地域には条理地割が良好に残っており、昭和 40 年代 後半までは一帯に水田が広がっていた。

今回の調査では、敷地南西側で弥生時代前期から中期にかけての集落(竪穴住居・土坑)および小児棺1基を検出した。敷地の北東側は弥生時代の自然流路にあたり、その埋没後は長年湿地あるいは水田であったことがわかる。弥生時代に属する遺構・遺物以外はほぼ皆無の状態であり、弥生時代に限定して集落が営まれている。

遺物は弥生土器、黒曜石製の石器などがコンテナ 100 箱 強出土した。甕棺片も出土していることから集落に伴う墓域 が想定できる。



1. 調査地点の位置(83 野芥 0317 S=1/8000)



2. 調査区全景(南から)

# 1821 博多遺跡群第 222 次 (HKT222)

所 在 地 博多区祇園町 149-4 他 6 筆

調査原因 ホテル建設

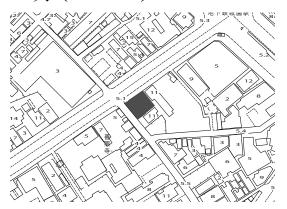
調査期間 2018.10.15 ~ 2019.1.18

調査面積 226㎡担 当 者 藏富士寛処 置 記録保存

# 調査の概要

古墳時代前期、そして奈良時代から中世前半にかけての遺構・遺物を確認しているが、その中心となるのが、①古代末~中世前半(11世紀後半~13世紀)と②古墳時代前期、である。①時期の遺構には、井戸、土坑、溝、ピット等、②時期の遺構には、竪穴住居跡、溝、土坑等がある。これらの内、注目を集める遺構として、①時期の土器廃棄土坑を挙げることができるだろう。これは、幅2m、長さ4m程の平面楕円形を呈し、調査区の中央を南北方向にのびる幅1m程の溝の上に、掘削されている。土坑には、土師器杯・皿や陶磁器の細片を中心とする土器類が、炭化物を交えて大量に投棄されており、時期は13世紀後半に比定できる。

今次調査で検出した遺構の密度は濃く、近隣における調査 成果と重ね合わせることで、当該期における集落の有様を知 る、重要な手がかりとなるだろう。



1. 調査地点の位置(49 天神 0121 S=1/4000)



2. 調査区全景(東から)

# 1822 有田遺跡群第 267 次(ART267)

所 在 地 早良区有田 2 丁目 16-7

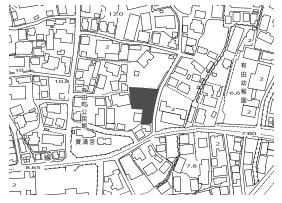
調査原因 個人住宅

調査期間 2018.9.25 ~ 2018.9.29

調査面積 58㎡担 当 者 板倉有大処 置 記録保存

### 調査の概要

対象地は有田・小田部台地の南東側、標高約 10.5 mに位置する。対象地の西側を中心に、南北方向の大きな溝が確認された。溝は幅 3.6m、深さ 2.6m を測る大きく、深いもので、断面 V 字形に掘られていた。これは戦国時代の「薬研堀」と呼ばれる防御施設と考えられ、対象地西側の小高い部分が館地で、そこを防御していたと考えられる。堀からは弥生時代、戦国時代、江戸時代の土器が出土した。堀が作られた時代は戦国時代で、江戸時代になって埋め立てられたようだが、その埋め土の中に弥生時代の土器が含まれていた。今回の発掘調査によって、対象地とその周辺に、戦国時代の里城(館城)が形成されていたことが分かった。江戸時代の地誌などに「小田部城」の記載があり、今回発見された堀は、これと関連するものと考えられる。



1. 調査地点の位置(82 原 0309 S=1/4000)



2. 調査区全景(西から)

# 1823 博多遺跡群第 223 次 (HKT223)

所 在 地 博多区冷泉町 389、394、391、378 の一部

調査原因 ホテル建設

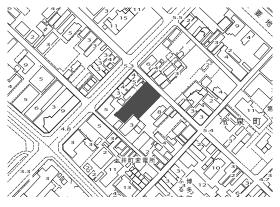
調査期間 2018.11.1 ~ 2019.4.22

調査面積 465㎡ 担 当 者 木下博文 処 置 記録保存

# 調査の概要

博多遺跡群は、博多湾に面した3列の東西方向の砂丘上に立地する。今回の調査地点は、遺跡の南西部に位置し、内陸の砂丘の西側頂部付近にあたる。今回の調査では計3面の調査をし、第2面では古代~平安時代末期の井戸・土坑、中世初頭の大溝を検出した。大溝は幅6m余り、深さ2mで、磁北からやや西偏した南北方向である。それらの遺構から、土師器皿、中国産陶磁器、中国製銅銭、土錘などが出土している。第3面の砂丘面では弥生時代終末~古墳時代初頭の土器棺墓1基を検出した。出土遺物の総量はコンテナ90箱におよぶ。

今回発見の大溝は、博多の港湾域区画の基軸であった可能性があり、博多の町割りの変遷を考える中で今後検討を要する貴重な事例といえる。



1. 調査地点の位置(49 天神 0121 S=1/4000)



2. 調査区全景(北東から)

### 箱崎遺跡第 89 次(HKZ89) 1824

東区箱崎 6 丁目 10-1 所在地 学術研究 (HZK1802) 調査原因 調査期間  $2018.9.3 \sim 2018.11.16$ 

調查面積

九州大学埋蔵文化財調査室 担当者

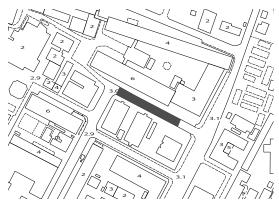
処 現状保存 置

### 調査の概要

第89次調査地点は、九州大学箱崎キャンパス理学部二号 館の南側通路に位置する。調査では元寇防塁と考えられる石 積み遺構の延長線上で、同遺構の最下段と考えられる礫岩・ 砂岩2石を検出した。それ以外の石積みは近現代の配管埋 設時に破壊されている。

石積み遺構の東側 7m 付近の位置からは、石積み遺構に 並行して南北に延びる溝状遺構が確認された。溝状遺構は 幅 6m 程度を測り、埋土からは 12~15世紀の貿易陶磁 器・土師器などの遺物が出土する。検出面から溝底面までは 90cm 程度の深さを測る。

溝状遺構周辺については、ジオスライサーを用いた地質学 的調査を実施し、調査地点周辺は「砂丘」の発達が非常に悪 い点や、溝状遺構がこのような堆積環境下では自然に形成さ れないこと等が判明した。



1. 調査地点の位置(34 箱崎 2639 S=1/4000)



2. 調査区全景(南東から)

### 箱崎遺跡第 90 次(HKZ90) 1825

所在地 東区馬出5丁目99番

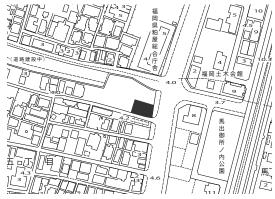
調査原因 共同住宅建設

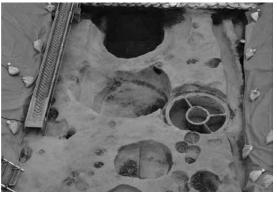
調査期間  $2018.10.1 \sim 2018.11.21$ 

調査面積 138m² 担当者 佐藤一郎 置 処 記録保存

### 調査の概要

箱崎遺跡は福岡平野の東部、多々良川水系の宇美川河口部 岩辺 左岸に位置し、博多湾岸に沿って形成された砂丘上に立地す る。調査地は遺跡の南東部に位置する。標高 3.0m 前後の黄 1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 S=1/4000) 灰色砂上面で検出した遺構は11世紀前半の井戸2基・溝2 条、調査区南東で検出した溝 SD03/04 は幅 0.5m の平行す る東西溝で、SD03 は延長 12m 検出した。土坑は 12 世紀前 半と 12 世紀後半のものを検出した。調査区北東端で 12c 後 半の井戸 SE13、東端で 15 世紀前半の幅 1.8m、断面 V 字の 南北溝 SD12 を延長 5m 検出した。溝 SD12 は第 2 次調査で 検出された3号溝と規模をほぼ同じくし、その延長の区画 溝とみられる。箱崎遺跡では道路遺構や区画溝といった中世 以降の町割に関わる遺構の検出例が少ない中で、貴重な発見 である。





2. 外環濠内遺物出土状況(北上空から)

# 1826 比恵遺跡群第 153 次(HIE153)

所 在 地 博多区博多駅南 5 丁目 69 番

調査原因 共同住宅

調査期間 2018.10.8 ~ 2018.11.7

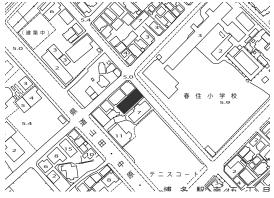
調査面積 121.61㎡ 担 当 者 清金良太 処 置 記録保存

# 1. 調査に至る経過

平成30年7月30日付けで、当該地における埋蔵文化財の有無についての照会文書が提出された(事前審査番号30-2-401)。当該地では平成5年8月11日に確認調査を行っており、散漫ながら遺構は確認されていた。確認調査の成果から共同住宅建設によって埋蔵文化財が影響を受ける範囲については発掘調査を行うこととした。調査は2018年10月8日に作業を開始し、同年11月7日に作業を終了した。

### 2. 位置と環境

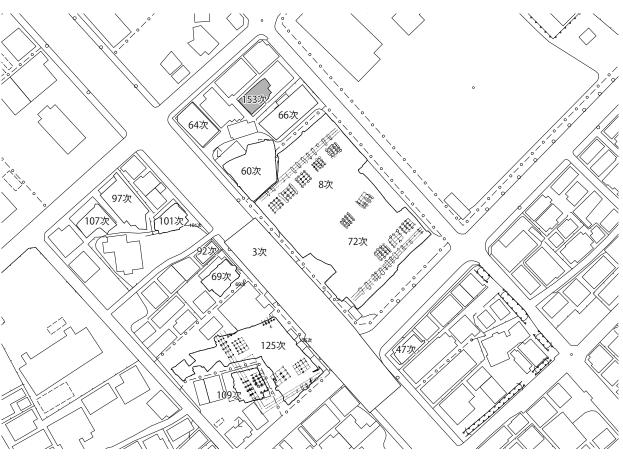
第 153 次調査は比恵遺跡群の北西側、8 次・72 次調査で 柵状遺構・総柱建物の存在が明らかとなった那津官家 (6世 紀後半から7世紀前半)の北西側に位置している。153 次 調査南側では60 次調査が行われ、弥生時代の甕棺などが出



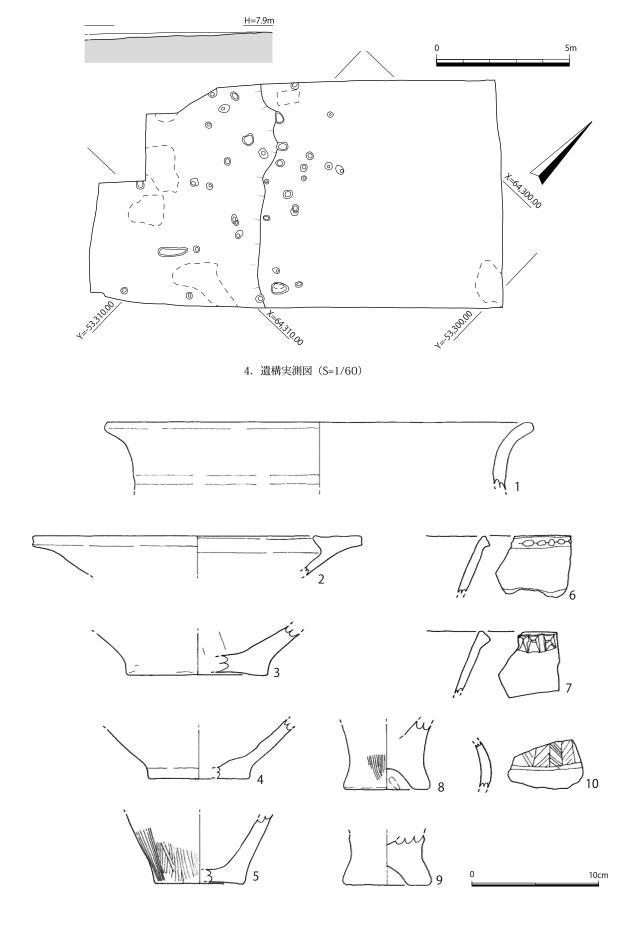
1. 調査地点の位置(37 東光寺 0127 S=1/4000)



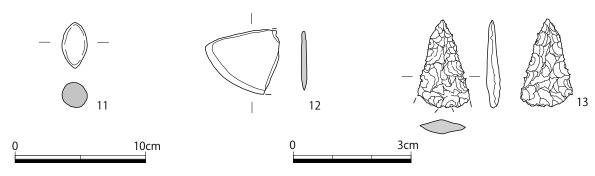
2. 2区全景(北東から)



3. 比恵遺跡群第 153 次調査周辺遺構図(S=1/1,000)



5. SX001 出土遺物実測図(S=1/3)



6. 出土遺物実測図(S=1/3・1/2)

土している。66 次調査では弥生時代中期から古墳時代初めにかけての遺構が検出されており、60 次調査との関係性が指摘されている。北西側に目を向けると64 次調査が行われている。撹乱が大部分を占めており、井戸から弥生時代の甕が出土したのみである。

### 3. 遺構と遺物

調査区の西側は後世の開発により遺構が消滅していたが、東側では遺構が確認できた。ピットからは遺物は出土 せず、弥生前期末から古代にかけての包含層のみ遺物が出土した状況であった。なお古代の須恵器は破片のみ数点 出土したので、図化はしていない。

### SX001 (包含層) 出土遺物

調査範囲の東側で確認した。遺物は破片のみ出土し、図化できる物を中心に図化をおこなった。

1は壺の口縁部から頸部にかけてである。口径約32cm、1~3mm程の砂礫を含む。焼成は良好で、色調は外側が橙褐色、内側が黒褐色である。頸部外面に凹線が一条回る。2は高坏の口縁部である。口径は約36cm、胎土には1~3mm程の砂礫と金雲母が入る。色調は外側が暗橙褐色、内側が淡橙黄褐色である。口縁部外面に一条凹線が回る。3、4は壺の底部である。3は底径約11cm、内面はヘラ削りの後ナデ調査、外面はナデ調整である。底部付近に工具痕がみられる。胎土は1~3mmの砂礫、金雲母を含む。焼成は良好で、色調は淡橙~橙褐色である。4は底径約7.8cm、調整は摩滅して不明である。胎土は1~2mm程の砂礫を含み、色調は外面が橙褐色、内面が灰褐色、一部黒褐色である。5は甕の底部である。底径約7cm、ハケ目調整がみられる。胎土に1~2mmの砂礫を含み、色調は外側が淡赤褐色、内側が暗灰褐色~暗黄褐色である。6、7は甕の口縁部である。口縁部外端にハケ工具で刻目を施す。8、9は厚い上底甕の底部である。8は約底径6.4cm、底厚1.6cmを測る。外面はハケ目調整、底部はナデである。胎土に1~3mm程の砂礫を含み、色調は外側が暗板色である。9は底径約6.2cm、底厚1.5cmである。調整は摩滅。胎土は1~5mm程の砂礫を含み、色調は外側が暗橙~明橙褐色、内側が茶褐色で



7. 1区全景(北東から)



8. 1 区表土掘削後遺構検出面(南から)

ある。焼成は不良。10 は壺の胴部であろうか。綾杉文 を外面に施す。

11 は投弾である。最大径 1.9cm、長さ 3.5cmである。 12 は石包丁である。頁岩製で風化が激しい。厚さ 0.4 cmである。13 は石鏃である。長さ 2.23cm、幅 1.32cm、 厚さ 0.35cmである。安山岩で鋸歯状調整がみられる。

### 4. まとめ

153次調査の南東側では60次調査が行われており、弥生時代中期~古墳時代初めの遺構検出されている。さらに南東側では6世紀後半から7世紀前半の那津官家跡が見つかっている(8次、72次)。8次調査で検出された柵状遺構より北西側では、古代に属する遺構は検出されていない。また、東側の春住小学校敷地内を試掘した際には、自然流路が確認されている。153次調査でも北東側に行くほど標高が下がっていることが確認でき、今回は自然流路への落ち際が確認できた。



9. 2区南壁土層(南西から)



10. 2区南西側全景(北東から)

# 1827 山王遺跡第 15 次(SNN15)

所 在 地 博多区山王 2 丁目 40 番 3、40 番 4

調査原因 共同住宅

調査期間 2018.10.15 ~ 2018.12.26

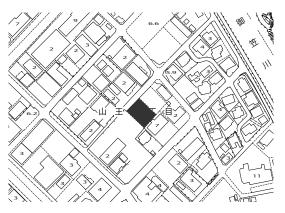
調查面積 125㎡担 当 者 松崎友理処 置 記録保存

# 調査の概要

第15次調査地点は山王遺跡の南西に位置する。調査地の標高は南側で約6.5m、北側で約6.3mを測り、南から北に向かって緩やかに傾斜している。

検出した遺構は竪穴住居跡6軒、井戸4基、溝3条、土坑、ピットである。遺構の時期は中世前半と弥生時代終末~古墳時代初頭の二時期に大きく分けられる。中世前半の主な遺構は調査区の中央を南北方向に縦断する大溝1条のほか、それに並行する溝2条、井戸1基である。弥生時代終末~古墳時代初頭の主な遺構は竪穴住居跡6軒と井戸3基である。調査区西側で検出された井戸2基は直径約0.8mを測り、少量の遺物量であったが、調査区中央の井戸は直径1.2mを測り、弥生時代終末の土器がまとまって検出された。

遺物は弥生土器、土師器、貿易陶磁器、石製品、玉類等がコンテナ 20 箱分出土した。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 2379 S=1/4000)



2. 調査区全景(東から)

# 1828 弥永原遺跡第 15 次 (YNB15)

所 在 地 南区曰佐3丁目42-1

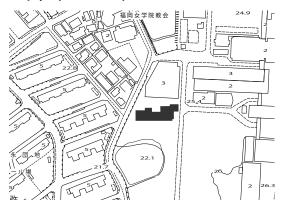
調査原因 学校施設

調査期間 2019.1.9~2019.3.30

調查面積 279㎡ 担 当 者 松﨑友理 処 置 記録保存

### 調査の概要

第15次調査地点は春日市との市境に位置する福岡女学院校内西側に位置する。弥永原遺跡の中央部南寄りに位置し、南北にのびる丘陵から西に派生した小丘陵の南側緩斜面に立地する。検出した遺構は大型甕棺墓1基、小型甕棺墓7基、木棺墓11基、土壙墓5基、不明遺構3基、溝2条などである。大型甕棺墓の墓壙は長軸約3.5m、短軸約2.1m、深さ約1.5mを測り、墓壙の東壁では階段状の平坦面が三段確認された。上甕が城ノ越式、下甕が金海式の甕棺で、中から頭蓋骨と歯、腕などの人骨が検出された。この大型甕棺墓を含め、調査区中央から北側に位置する墓群は東西方向に並んでおり、列埋葬と考えられる。溝は堆積状況から2回掘りなおした形跡が確認でき、出土遺物から弥生時代に掘削され、最終的に古墳時代まで使用されたと推定される。



1. 調査地点の位置(26 上日佐 0105 S=1/4000)



2. 調査区全景(南西から)

# 1829 箱崎遺跡第 91 次 (HKZ91)

所 在 地 東区箱崎 6 丁目 10-1 調査原因 学術研究(HZK1803) 調査期間 2018.10.17 ~ 2019.1.18

調査面積 300㎡

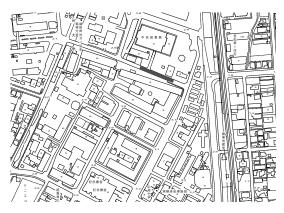
担 当 者 九州大学埋蔵文化財調査室

処 置 現状保存

# 調査の概要

第91次地点は九州大学箱崎キャンパス中央図書館の南側通路に位置する。調査地点北側では石積み遺構が連続した状態で確認されており、本地点においても同遺構の最下段に使用されたと考えられる大型の砂岩・礫岩3石が確認された。石積み遺構の東側には溝状遺構が並行して延びる。溝状遺構は河川・海成堆積層を掘り込んで掘削され、上面での幅は7m前後を測る。検出面から溝状遺構底面までの深さは1.1m程度で、石積み遺構全面から溝状遺構東端までの距離は約13mである。溝状遺構からは中世の貿易陶磁器片や土師器などが出土した。

石積み遺構の位置や出土遺物から、13世紀後葉に築造された元寇防塁である可能性が高く、溝状遺構はこれと同時期に構築された施設である可能性が高い。



1. 調査地点の位置(33 貝塚 2639 S=1/8000)



2. 調査地点全景(東から)

# 1830 箱崎遺跡第 92 次(HKZ92)

所 在 地 東区箱崎 6 丁目 10-1(九州大学構内)

調査原因 都市計画道路

調査期間 2018.11.1 ~ 2019.3.31

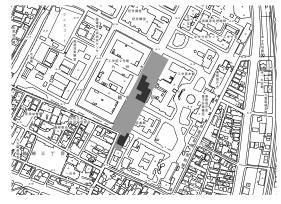
調查面積 1335.9㎡担 当 者 板倉有大処 置 記録保存

### 調査の概要

第92次調査は、都市計画道路予定範囲で実施したものである。対象地周辺のこれまでの調査では、古墳時代から江戸時代の集落や墓が発見されている。対象地内は近代以降の建物や地下埋設物の工事によって大きく破壊されていたが、建物基礎の間から遺構が検出された。遺構は土坑・井戸・木棺墓・鍛冶炉等が確認できた。

遺構は鎌倉時代から室町時代にかけてのもので、これらの 遺構から土師器、陶磁器、蛸壺、鉄滓、石造物、石臼、漁網 錘、動物の骨、井戸の木枠などが出土した。

これらの遺構・遺物を詳細に分析することで、当時の人々 の漁業や鍛冶などの生業のあり方、食生活、葬礼に関わる信 仰などを明らかにできると期待される。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 S=1/8000)



2. 調査区全景(南西から)

# 1831 有田遺跡群第 268 次(ART268)

所 在 地 早良区小田部 3 丁目 284 番

調査原因 共同住宅

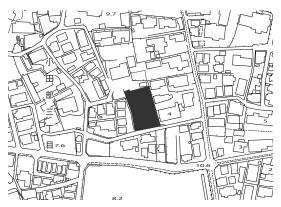
調査期間 2018.11.12 ~ 2018.12.11

調査面積 111.6㎡ 担 当 者 清金良太 処 置 記録保存

# 調査の概要

第 268 次地点は有田遺跡群中央部に位置しており、台地の最高所から西に下った所にあり、標高約 10.5 mを測る。東側隣地では 107・113・186 次調査が行われており、江戸時代後半の建物跡、奈良時代の溝等が検出されている。 268 次でも、隣地調査と同じく江戸時代後半の屋敷跡の他、弥生時代から古墳時代のピットが発見された。 186 次調査で報告されているが、敷地の南側を東西に走る道路と屋敷跡が平行に並んでおり、道路が江戸時代から続いていた可能性が指摘される。

弥生時代から古墳時代の遺物は、小片であるため詳しい時期は不明である。ピットは発掘調査地の西側を中心に検出されたが、本来全域に広がっていたものが、東側は造成などで消滅し、調査地西側でのみ検出されたと考えられる。



1. 調査地点の位置(82 原 0309 S=1/4000)



2. 調査区全景(南西から)

# 1832 香椎 A 遺跡第 8 次(KSA8)

所 在 地 東区香椎三丁目 1045-1

調査原因 宅地造成

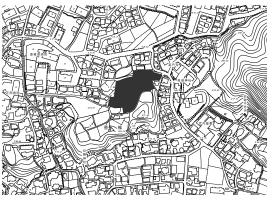
調査期間 2018.12.17 ~ 2019.3.8

調査面積 290.7㎡ 担 当 者 清金良太 処 置 記録保存

### 調査の概要

香椎の地は近代以降の丘陵部造成・香椎潟の埋め立てにより旧地形復元が難しい地域である。香椎A遺跡内での発掘調査は今回が8次となる。遺構面は丘陵北側斜面に位置し、標高は23m~25.25mを測る。

第1面では主に溝・土坑を検出した。遺構埋土からは12世紀頃の土師器が出土している。溝は直角に曲がった状態で検出されており区画溝とみられる。土坑は7世紀頃の須恵器の蓋が検出されたが、相当撹乱を受けており、詳細は不明である。また、土坑は焼土が壁際で検出され、炭が土坑下部にみられ炭焼きの土坑である。土師器の小片が検出され、古代以降の時期と考えられる。第2面は、厚さ約80cmの包含層(弥生時代中期後半以降)を掘り下げた深さで設定した。遺構はピットは数基を確認したのみである。



1. 調査地点の位置(17 浜男 0069 S=1/8000)



2. 調査区全景(南西から)

# 1833 仲島遺跡第6次(NKZ6)

所 在 地 博多区井相田 2 丁目 4 番 2

調查原因 事務所建設

調査期間 2019.1.15 ~ 2019.2.27

調査面積 294.4㎡

担 当 者 屋山洋・三浦悠葵

処 置 記録保存

# 調査の概要

仲島遺跡は、福岡平野の東辺を南北に流れる御笠川の、中流域左岸に広がる低丘陵上に立地する遺跡であり、本調査地は中央西側に位置する。東側に近接する第2次調査区域では古墳時代末から平安時代前期にかかる溝や掘立柱建物などを検出している。また当遺跡は大野城市市域と一体となる遺跡群を形成しており、古代には大宰府と関連する集落が形成されていたことが指摘されている。

今回の調査では、溝9条と多数のピットを検出した。調査 区南半は現代の水田造成時に削平を受け、下層の水成堆積層 を確認したのみである。いずれも須恵器、土師器、弥生土器 などが出土しており、遺構の時期は6世紀末から7世紀初頭 頃と考えられる。以上の事から、本調査地とその周辺地域で は6世紀末から7世紀初頭にかけて集落が形成されていたと 考えられる。



1. 調査地点の位置(12 麦野 0037 S=1/4000)



2. 調査区全景(北から)

# 1834 比恵遺跡群第 154 次(HIE154)

所 在 地 博多区博多駅南 6 丁目 79 番 2

調査原因 専用住宅

調査期間 2018.12.4 ~ 2018.12.28

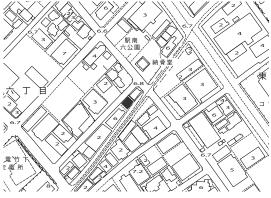
調査面積 60㎡担 当 者 佐藤一郎処 置 記録保存

### 調査の概要

第154次調査地点は、比恵遺跡群南端に位置する。遺構面の標高は6.5m前後で、烏栖ローム層上面で竪穴住居跡5棟、溝1条、柱穴22個などを検出した。竪穴住居は弥生時代後期から古墳時代前期にかけての時期に属するもので、いずれも後世の攪乱により残存状態は不良である。溝は幅50cm、深さ10cmを測る中世末と考えられる溝で、延長2m分を検出した。

遺物は主として住居跡から弥生土器や土師器の破片がコンテナ5箱出土した。特筆すべき遺物として住居跡からガラス小玉が計2点出土した。

今回の調査では弥生時代後期から古墳時代前期にかけての 集落を検出したが、周辺の調査事例と照合を重ねることに よって、本来の姿を復元するための知見を得られた。



1. 調査地点の位置(37 東光寺 0127 S=1/4000)



2. 調査区全景(南から)

# 1835 博多遺跡群第 224 次(HKT224)

所 在 地 博多区冷泉町 450、451

調査原因 ホテル建設

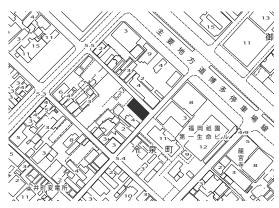
調査期間 2019.1.31 ~ 2019.4.19

調査面積 175㎡担 当 者 佐藤一郎処 置 記録保存

### 調査の概要

博多遺跡群は福岡平野の中央、那珂川河口部右岸に位置し、博多湾岸に沿って形成された古砂丘上に立地する。第 224 次調査地点は博多遺跡群の南西部、第 90 次調査地の北西に位置する。標高 3.5m 前後の灰褐色砂上面で 12 世紀前半の大溝の屈曲部分、その埋没後に掘込まれた 13c 後半の井戸、大溝と前後する 12 世紀の多数の廃棄土坑を検出した。下面では、ピット状遺構数個の他、8 世紀の溝 1 条を検出したが、後世の遺構に切られ断片的に残るのみである。

遺物はコンテナ 120 箱分が出土し、貿易陶磁器の多くは 白磁碗であった。この他に高麗青磁小碗片・炭化米等も出土 した。廃棄土坑出土の陶磁器片の多くは火災により破損した ため廃棄されたものであろう。下面で検出した古代の溝は第 90 次調査で検出された溝と方位・規模をほぼ同じくし、そ の延長とみられる。方位は N-45°-W に取る。



1. 調査地点の位置(49 天神 0121 S=1/4000)



2. 調査区全景(北から)

# 1837 飯倉 E 遺跡第 3 次 (IKR-E3)

所在地 城南区七隈 5 丁目 384 番 調査面積

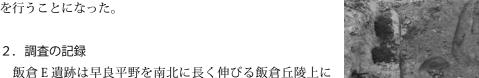
調査原因 共同住宅 担当者 山本晃平·三浦萌

調査期間  $2019.1.21 \sim 2019.2.2$ 処 置 記録保存

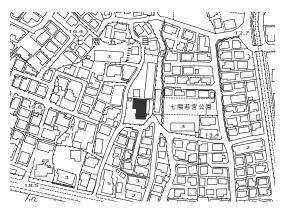
# 調査の概要

### 1. 調査に至る経緯

平成30年6月7日付けで、当該地における埋蔵文化財 の有無についての照会文書が提出された(事前審査番号30-2-213)。平成30年7月24日に現地での確認調査を行った。 その際は、現地表面下 60cmの深さで柱穴状の遺構等を確認 した。ただ既存建物が存在する状態で実施したため、確認調 査の面積が十分ではなく、既存建物解体後に再度試掘を行う ことになった。建物解体後の平成30年11月22日に再度 申請地東側で確認調査を行ったところ、現地表面下 110cm で柱穴や竪穴住居等を検出した。その後遺跡の保存等に関し て申請者と協議を行った結果、一部設計変更を行い遺跡の密 度が少ない西側で建築を行うことになり、工事着手前に発掘 調査を行うことになった。しかし表土掘削・遺構検出を行っ た結果、想定よりも遺構密度が高く急遽2月2日まで調査 を行うことになった。



立地する。第3次調査地点は飯倉E遺跡の東端の丘陵上の 端に位置する。当該地は当初遺跡の隣接地であったが、今回 2. 第3次調査遺構掘削状況(南西から) 確認調査および発掘調査により遺構・遺物が確認されたこと



1. 調査地点の位置(74 七隈 0252 S=1/4000)



を受け包蔵地範囲を一部拡大した。飯倉 E 遺跡の調査履歴を再確認したところ、1979 年調査の干隈遺跡(※1) と干隈熊添古墳(※ 2)は飯倉 E 遺跡内に含まれることがわかり、前者を第 1 次調査、後者を第 2 次調査とし、 今回の調査を第3次調査とした。

第3次調査では、掘立柱建物1棟、竪穴住居5棟等を確認した。遺物は土師器・須恵器・石器などがコン テナ2箱分出土した。遺構面は南西に向かって傾斜し、また後世の溝や攪乱などで削平を受けている。

### 1) 竪穴住居

SC-01 調査区南西隅で検出した。住居の北西隅部の み検出したため全体の規模は不明である。検出面から 住居床面までの深さは 45cm を測る。

出土遺物(図9) 1は須恵器の坏蓋。残存率は1/4 弱のため法量は不明である。調整は口縁部外面及び内 面は回転ナデ、天井部はヘラ削りである。2mm以下の 赤褐色粒、白色粒を含む胎土で色調は灰色である。

2 は土師器の小型甑。残存率は 1/2、口径 13.6 cm、 器高 8.3cm、底径 5.4cmをはかる。器表はほとんど摩 滅しており、調整は不明。3㎜以下の赤色粒・石英・ 長石粒・雲母を含む胎土で、色調は橙色である。



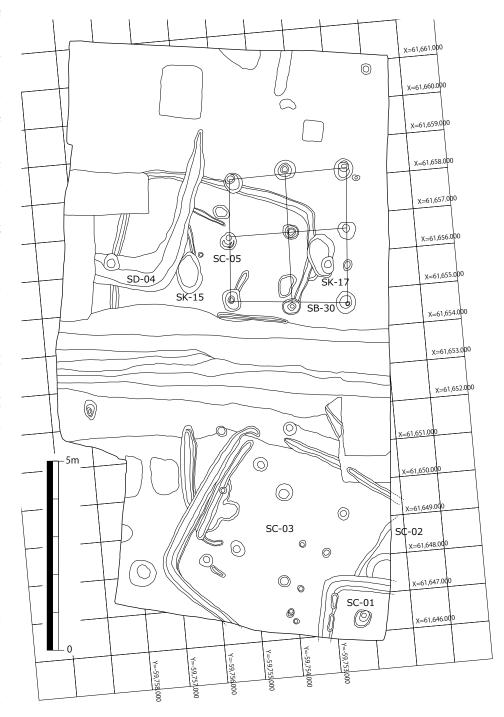
3. 第3次調査地点遺構検出状況(南から)

3は須恵器の高圷の脚部。外面はヘラ削りで、裾部内面はナデ調整が行われている。2m以下の白色粒を含む胎土で色調は黒色である。4は土師器の把手。5m以下の褐色粒・石英・長石粒・雲母を含む胎土で色調は黄橙色である。

SC-02 調査区南西隅部で検出した。SC01に切られ、全体の規模は不明である。検出面から床面まで10cm程度の深さしか残存していない。

SC-03 調査区南側で検出した住居で、SC-01と SC-02 に切られる。規模は1辺5.1mを測る。過去の開墾により大きく削平を受け、床面以下まで削平される。住居周囲に深さ7cmの壁溝が巡る。出土遺物(図9)

5 は土師質の短頸壺。 韓式系土器か。壁溝出土 で胴部上半のみ出土。口 径 15.6cmを測る。調整 は全体的に摩滅が激しい が、内面に同心円状のあ て具痕が見られる。4mm 以下の赤色粒や石英・長 石粒を含む胎土で色調は 橙色である。

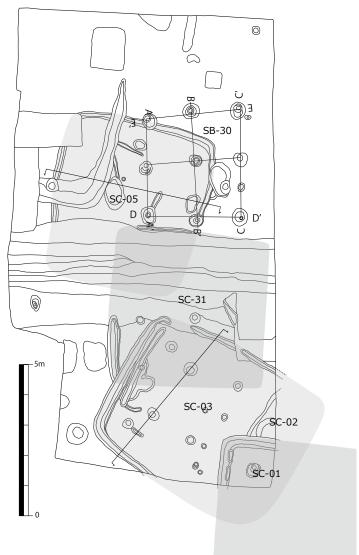


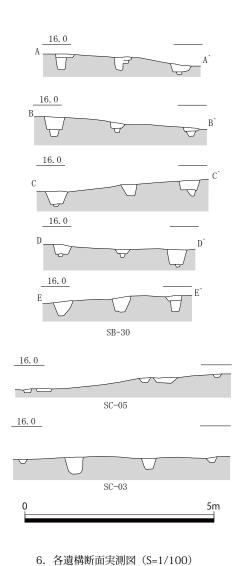
4. 飯倉 E 遺跡第 3 次調査 遺構実測図 (S=1/100)

SC-05 調査区北側で検出した。南側は後世の区画溝によって切られ全容は不明だが、残存する東西部分から一辺 5.2m 前後の規模を復元することができる。壁面は残っておらず、深さ約 5cmの壁溝が巡っている。住居検出面の標高は 15.60m を測る。

出土遺物(図 9) 6 は須恵器坏蓋。壁溝出土。口縁部のみの小片のため法量は不明。全体に回転ナデ調整が行われている。3m以下の白色粒を多く含む胎土で色調は灰色を呈する。7 は土師器小壺。壁溝埋土から出土した。口径 5.9cm、器高 5.6cm、底径 2cmをはかる。外面上半部は回転ナデ調整で下半部はケズリが施されている。内面はナデ調整である。2mm以下の石英・長石粒・雲母を含む胎土で色調は灰黄褐色〜明黄褐色である。8 は須恵器高坏。住居床面出土。裾部は残っていない。口径 9.9cmをはかる。坏部底部はヘラ削りで、他は回転ナデ調整である。坏部体部に波状文が施されている。脚部には 3 か所透かし穴がある。調整は回転ナデである。

9 は滑石製紡錐車で壁溝出土。径 4.8cm、最大厚 1.8cmを測り、中心に径 0.7cmの孔がある。重量で 59 g 、色調





は褐灰色~にぶい褐色を呈する。

SC-31 調査区中央で検出された住居で、大半が区画溝や他の遺構により削平される。壁溝の一部のみを確認し たのである。壁溝底面の標高は 15.30m 前後を測る。

# 2) 掘立柱建物

SB-30 調査区北側で検出した2間×2間の総柱建物である。各柱間隔は1.5~2m、検出面から各柱穴底面まで

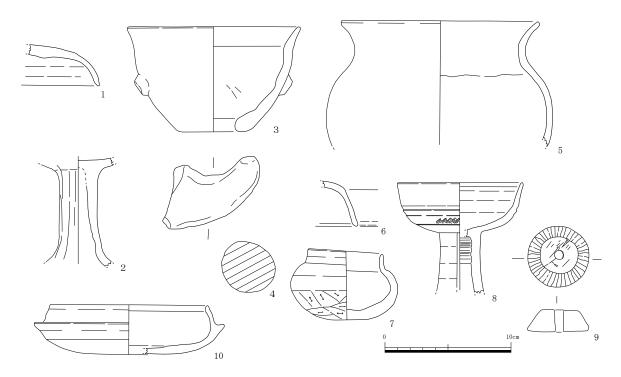


5. 遺構配置概念実測図(S=1/125)

7. SC-05 壁溝内遺物出土状況(西から)



8. 遺構掘り下げ状況(東から)



9. 出土遺物実測図 (S=1/3)

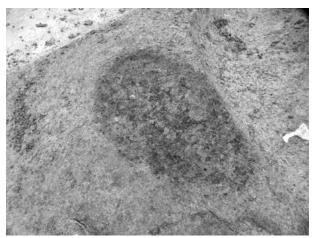
の深さは 20~45cm 前後を測る。柱穴底面には柱痕跡が残る。

出土遺物(図 9) 10 は須恵器坏身。口径 12.3cm、器高 3.8cmを測る。底部はヘラ削り調整で、そのほかは回転ナデ調整である。白色微粒子を若干含む精緻な胎土で色調は浅黄橙色を呈する。

# 3. 小結

限られた調査面積・期間の中で、古墳時代の総柱建物と竪穴住居 5 棟を確認できた。いずれの遺構も大きく 削平を受け、残存状況は不良であるが集落の一端を確認することができた。対象地は七隈川左岸の低丘陵東側斜 面上に位置し、丘陵上で行われたこれまでの調査では古墳や住居・堀立柱建物群で構成された集落が確認されて おり、本調査では連綿と営まれた集落の東側側縁部を検出したものと想定される。

- ※ 1 調查番号 7808 早良区干隈 1 丁目 376-1 地内 干隈遺跡調査会 1985『干隈遺跡』
- ※ 2 調查番号 7820 早良区干隈字熊添 407-1 地内 熊添古墳調查会 1985『干隈熊添古墳』



10. SK-15 掘り下げ状況(東から)



11. 調査区南側作業状況(西から)

# 1838 那珂遺跡群第 175 次 (NAK175)

所 在 地 博多区那珂 1 丁目 44-14

調查原因 重要確認調查

調査期間 2019.2.1 ~ 2019.2.18

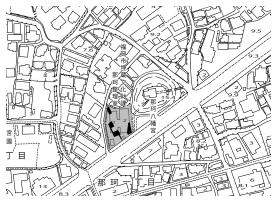
調査面積 262.4㎡ 担 当 者 久住猛雄 処 置 記録保存

### 調査の概要

那珂遺跡群第 175 次調査地点は遺跡範囲の中央部に位置する、市指定史跡「那珂八幡古墳」の前方部に位置する。現状で標高 9.8m 前後を測る。調査は前方部の形状および規模、残存状況を確認するために確認トレンチを設定した。

調査では、周溝の一部と前方部墳端部を確認し、福岡平野 最古の前方後円墳である那珂八幡古墳の全容を検討するため の重要な知見を得ることができた。調査の結果、前方部側縁 はバチ形に開き、前端部は弧状をなし、南側隅部には通路状 の狭いスロープが検出され、出現期古墳の様相が判明した。

遺物として弥生土器・土師器・須恵器・初期瓦のほか、石 棺材と考えられる石材が出土した。前方部上にも石棺を主体 とする埋葬施設が存在していた可能性が考えられる。



1. 調査地点の位置(37 東光寺 0085 S=1/4000)



2. 調査区全景(南西側上空から)

# 1839 箱崎遺跡第 93 次 (HKZ93)

所 在 地 東区箱崎 6 丁目 10-1 調査原因 学術研究(HZK1804) 調査期間 2019.3.21 ~ 2019.7.29

調査面積 400㎡

担 当 者 九州大学埋蔵文化財調査室

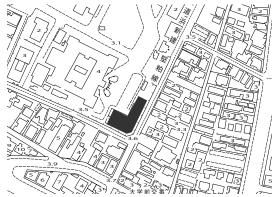
処 置 記録保存

# 調査の概要

第93次地点は、九州大学箱崎キャンパス南部の旧記録資料館付近に位置する。北から南にかけてA・B・C区の3カ所に分けて調査区を設定し順次作業を行った。A区は現代の攪乱により大きく破壊を受けているが、B・C区では遺構が良好に残る。検出された遺構は堀立柱建物、溝状遺構、土坑群、井戸などがある。

遺物は中世の陶磁器類、土師器、土錘、碁石などが出土した。 特にC区からは瓦の出土が多く、軒丸瓦・軒平瓦も見られる。 これらの瓦類は中世に属するものと考えられる。

出土遺物や検出遺構から 12 世紀後半から 13 世紀代の集落を想定することができる。



1. 調査地点の位置(34 箱崎 2639 S=1/4000)



2. 調査区全景(北東から)

# 1840 箱崎遺跡第 94 次(HKZ94)

所 在 地 東区箱崎 6 丁目 10-1 調査原因 学術研究(HZK1805) 調査期間 2019.3.15 ~ 2019.5.10

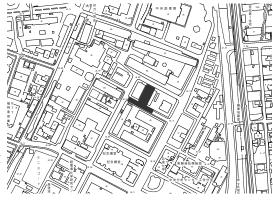
調査面積 800㎡

担 当 者 九州大学埋蔵文化財調査室

処 置 現状保存

### 調査の概要

第94次調査地点では、延長26.3m分の石積み遺構を検出した。これまでキャンパス内で確認された石積み遺構と一連のものであり、他地点と同じく名島層由来の礫岩・砂岩を用いている。裏込めは施さず前面のみ幅50~80cmの角礫を積み上げている。石積み遺構東側には他地点と同様に溝状遺構を構築する。溝状遺構の幅は他地点より幅広く、13~14m前後となり、石積み遺構底面から底面までの深さは70~110cmを測る。石積み遺構はキャンパス内の計5地点で確認され、ほぼ同一線上に位置している。構造的にも元寇防塁である可能性が高いが、石積みが前面のみであることなど相違点も見受けられる。石積み遺構廃絶後、密度は低いものの中世後半期の火葬墓等が営まれており、一体の土地利用の状況が把握できる資料が得られた。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 S=1/8000)



2. 石積み遺構検出状況(南から)

# 1841 原遺跡第 35 次 (HAA35)

所 在 地 早良区原8丁目1178番7、1178番8

調查原因 共同住宅

調査期間 2019.2.18 ~ 2019.3.8

調査面積 115.18㎡

担 当 者 井上繭子·三浦萌

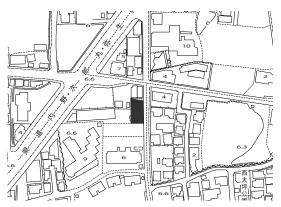
処 置 記録保存

# 調査の概要

原遺跡は旧石器時代から中近世にかけての複合遺跡である。当遺跡は早良平野を流れる室見川中流の東岸、金屑川と油山川に挟まれた位置にある。金屑川と油山川それぞれに沿って自然堤防が形成されており、その上に遺跡は立地している。

第35次調査地点は遺跡範囲の東側に位置しており、周辺 調査においては15世紀~16世紀代に属する方形の区画溝 と、その内部に建物を伴う館跡が検出されている。

今回の調査では方形土坑が1基、建物跡になる可能性がある並んだ柱穴群、調査区北壁にかかった大溝、土坑などが確認された。このうち大溝から土鍋片やすり鉢片が出土しており、時期は中世後半であると思われる。



1. 調査地点の位置(82 原 0311 S=1/4000)



2. 調査区全景(北東から)

# 1842 箱崎遺跡第 95 次(HKZ95)

所 在 地 東区箱崎 1 丁目 2672、2684-1

調査原因 自家用住宅+共同住宅 調査期間 2019.3.11 ~ 2019.5.29

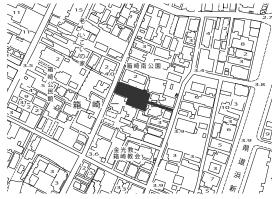
調査面積 192.32㎡

担 当 者 屋山洋·三浦悠葵

処 置 記録保存

### 調査の概要

第95次調査区は西側に傾斜する斜面上に位置する。13世紀後半から14世紀前半には焼土ブロックによる整地層があり、その上にも薄い整地が続く。その後、厚さ数cm程のやや雑な整地になり、14世紀中頃にはGL-40cmぐらいになるが、その前後に栗石を伴う礎石が数基みられる。礎石は後世の井戸によりそのほとんどは削平されて建物規模は不明である。また。14世紀中頃から井戸が集中して掘られるようになり、調査区内で多くの井戸が出土した。井戸の井筒中層からは14世紀中頃の常滑甕を中心とする陶器甕片が多く出土した。 礎石のような平らな礫が焼土とともに多く出土した。調査区南縁に沿って溝状の掘り込みを確認したが、中世から近世・近代まで何度も掘り直されており、その中には中世の土師皿廃棄土坑なども確認した。



1. 調査地点の位置(34 箱崎 2639 S=1/4000)



2. 調査区全景(北東から)

# 1843 次郎丸高石遺跡第7次(JRT7)

所 在 地 早良区賀茂 3 丁目 423 番 1 他

調查原因 共同住宅

調査期間 2019.3.18 ~ 2019.4.9

調査面積 405.5㎡

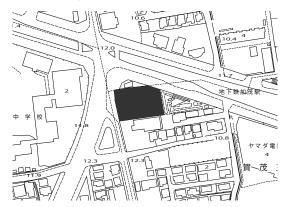
担 当 者 清金良太・吉田大輔・三浦萌

処 置 記録保存

### 調査の概要

次郎丸高石遺跡は早良平野の中央部に位置しており、宅地 造成により盛土されているため旧地形を残してはいない。これまでの調査では縄文時代から中世にかけての遺構・遺物が 確認されている。

第7次調査地点は、次郎丸高石遺跡のほぼ中央部に位置している。調査区東部において、調査区を南北に横断する溝1条と、鶏卵形土坑が1基確認された。いずれの遺構からも弥生土器片が出土しており、特に土坑からはまとまった量で出土している。これらの土器は弥生中期頃に属するものであり、本地点は該当時期の集落縁辺に位置していた可能性が考えられる。



1. 調査地点の位置(83 野芥 1843 S=1/4000)



2. 調査区全景(北東から)

# VI 平成 30 年度福岡市新指定および新登録文化財

平成30年度の福岡市新指定および新登録文化財は、平成31年2月15日開催の福岡市文化財保護審議会において、16件の文化財について答申を得、平成31年3月25日の福岡市公報により告示された。

# 1 指定文化財の概要

区分	種別	指定名称	員数	所在地	所有者•保持団体		
有形文化財	古文書	みょうぎょうじもんじょ 妙行寺文書	13点	福岡市南区野間	宗教法人妙行寺		
民俗文化財	無形民俗	とうのはる ぎおんやまかさぎょうじ 唐原の祇園山笠行事		福岡市東区唐原	唐原の祇園山笠行事保存会		
記念物	天然記念物	<sup>いちぎょうじ</sup> 一行寺のシダレイチョウ	1本	福岡市博多区中呉服町	宗教法人一行寺		

# (1) 妙行寺文書 13点(有形文化財/古文書)

妙行寺文書は福岡市南区野間に所在する浄土真宗東本願寺派寺院、袖湊山妙行寺に伝来する古文書である。員数は巻子2巻に表装された16世紀後期から17世紀初期にかけての古文書11点、それらの古文書の写を収録した冊子2点の合計13点を数える。

妙行寺は第二次世界大戦の戦災で焼失し、昭和36年(1961)に現在地へ移転するまで、博多川口町(現在の冷泉公園敷地)に存在した。もと天台宗寺院だったが、明応年間(1492~1501)に住僧が大坂に上って本願寺蓮如上人に帰依し、浄土真宗の門徒となって宗旨を改めたという。それ以後は本山から輪番で住持が派遣され、九州の同宗派寺院を支配したと伝えられる。江戸時代初頭の東西本願寺分裂に際して妙行寺は東本願寺に帰属し、以後近世を通じて福岡藩領内の東本願寺末寺の触頭を務めることとなった。

古文書の内容は寺院の来歴に関連し、16世紀後期から17世紀初期にかけての本山本願寺と妙行寺との関係を示す文書が多数を占める。1~2号は天正20年(文禄元年・1592)、本願寺門主教如上人の九州下向に関する史料である。本願寺重臣の粟津右近・松尾左近から、教如の宿泊施設と路次の馬・人足の提供を求める内容が述べられている。4~5号は16世紀後期の妙行寺復興に関して、本願寺の坊官下間氏から下された文書である。宛所として4号では「妙行寺下老分」の「八木宗珍」以下9名の名が、5号では「博多十一人□□〔衆中加〕の名が見え、妙行寺の維持と宗派の隆盛に対する彼らの貢献を期待する旨が述べられている。共に戦国時代末期の博多住人の中に、浄土真宗への信仰を通じて組織化された人々がいたことを知ることができる。またこの時期の博多町人の氏名を具体的に知ることができる点も貴重である。6~7号及び10号は既に市文化財に指定されている萬行寺資料とも関連し、慶長7年(1602)の東西本願寺分立事件に関係する史料である。8~9号及び11号は慶長6年(1601)に比定される黒田如水(孝高)書状の写である。本願寺坊官下間氏等に対して、門跡准如上人からの進物に対する謝意と、



写真 1 妙行寺文書(天正 20 年・1595) 5 月 9 日 粟津壱也等連署書状

福岡藩領内の浄土真宗末寺門徒は一様に本山に従わせる旨が述べられている。特に11号は「甲斐守(黒田長政)居城取替」の文言が見え、黒田家による名島城から福岡城への移転に関する史料としても重要である。これらの文書写は福岡藩領内の浄土真宗寺院を代表し、本願寺と黒田家を仲介する妙行寺の活動を通じて作成され、伝来したものと推測される。12号~13号は共に昭和15年(1940)に作成された妙行寺文書の写で、1~7号文書が収録される。奥書より当時の住職の依頼により、元東京帝国大学史料編纂所編纂官の鷲尾順敬が校訂、作成したことが明らかとなる。

以上妙行寺文書は、萬行寺とならび博多で最も歴史ある浄土真宗寺院に伝来した古文書として、本市の宗教史、特に浄土真宗の歴史に関する重要な史料として評価される。戦国期以降、都市博多の住民を門徒として組織化しつつ、本山や領主との交渉を重ねながら、近世には福岡藩領における浄土真宗東本願寺末の主要寺院としての地位を確立した妙行寺の歴史を跡づける貴重な古文書である。

# (2) 唐原の祇園山笠行事(民俗文化財/無形民俗)

唐原の祇園山笠行事は、毎年7月13日の前の日曜日に行われる。4本の舁き棒を使った博多系の山笠

である。集落の氏神である須賀神 社(祇園宮)の祭礼として行われ ている。

唐原の山笠は、7月1日に注連 下ろしが行われるところから始ま り、祭礼3日前から山笠の組み立 て作業が地域の人々自らによって 行われる。祭礼3日前に行われ る「台からげ」と呼ばれる山笠の 基礎部分の組み立てを行う行程で は、4本の台脚が山笠台上下の四 隅を対角線に固定する「八つ文字 縄 | と呼ばれる締め方で締められ る。これは博多山笠の基礎部分の 締め方と共通する。同時に「杉縁」 と呼ばれる、博多山笠での杉壁を 作る作業や、鉄砲作りが進行する が、これらの作業もすべて地域の 人々によって行われる。祭礼前日 には、山飾りが行われ、博多人形 師から借用した人形が表に1体、 見送りに1体飾り付けられ、高さ 約5メートルの山笠が作り上げら れる。祭礼当日は午前11時から 神事が行われ、夕方5時半より子 供たちが山笠の始まりを触れまわ る。山笠は神社の前の道を3往復 し、神社に戻る。そして、境内で 右回りに3回回され、前後に3回 揺すられた後、担ぎ手たちが博多



写真 2 唐原の祇園山笠行事・山笠の飾り付け作業



写真3 唐原の祇園山笠行事・舁き山

祝い歌を歌って終了となる。翌日は、早朝午前5時前より山の解体作業が進められる。同日夕方6時頃より、祇園座と呼ばれる宮座の集まりが行われる。これらの一連の行事が終了した後に、人形師の元へ人形の返却を行い、来年使う人形を借りてくる。

行事の来歴については、史料等が限られており開始時期を特定することはできないが、現在使用されている山笠の土台が大正期のものとされるなど、少なくとも近代にはその来歴を遡ることができるものと思われる。北部九州には「ハカタウツシ」の山笠と呼ばれる、博多祇園山笠が伝播したと考えられる山笠が点在している。唐原の祇園山笠についても、人形を博多人形師から借り受ける点や、その構造などに博多の山笠との共通点を見いだすことができ、本山笠を「ハカタウツシ」の山笠と捉えることが可能である。かつて、唐原は農業を主体としたムラであり、博多に赤松を燃料として供給していた。博多というマチとの関係性の中で、北部九州一帯に伝わる山笠と同様に、山笠を地域に取り込んでいった可能性が推測される。

唐原の祇園山笠行事は、都市の御霊信仰を基盤に持つ夏祭りが、地域的な展開を遂げた一典型として捉えることができる。その基盤には、集落に元来存在していたと考えられる宮座制度による強固な村落内の結びつきがあり、その結びつきのシステムの中に山笠行事が組み込まれたことで、伝承が継続してきたものと考えられる。唐原の祇園山笠行事は、山笠に関わる全ての過程を地域住民自らの手で伝えている貴重な民俗行事であり、博多と周辺地域の間で成立してきたマチとムラの関係性を色濃く投影した地域的行事の典型と捉えることができることから、本市の文化財に指定することにより地域住民の手で長く継承保存されることが望まれる。

# (3) 一行寺のシダレイチョウ(記念物/天然記念物)

イチョウは、イチョウ科イチョウ属に属する中国原産の裸子植物である。葉は基本的に端正な扇形で、 秋には美しく黄葉し、落葉する。成長は比較的早生で、高木となり、樹皮は褐灰色で、浅く縦に裂ける。 雌雄異株で、花は4月に咲く。古くから屋敷地や畑地の庇陰木などとして植えられ、種実を採取してきた。 イチョウは保水力が強く樹皮が強靭なため、雷撃にあってもよく再生回復する強い防火能力を持つ。その 力に長寿と畏敬の念を併せて多く植えられてきたと考えられる。



写真 4 一行寺のシダレイチョウ

一行寺のシダレイチョウ1本は雌株で、境内の南東端に位置する。石堂川のほとりに立ち、周辺に他に大きな樹木がないため、遠くからも望める喬木である。大きさは胸高幹周り 2.72m、樹高 15.2m、樹幹は真っすぐに伸び、そこから枝が四方に伸び垂れ下がっており、イチョウでは稀有な枝垂れである。また、秋には美しく黄葉し、多くの銀杏を付けるなど樹勢も良好である。

また雌株のシダレイチョウから 3.7m 離れた地点に、昭和 43 年 (1968) 頃伐採された雄株の根が残る。 雌株と同程度の大きさであったので、雄株の年輪を計測することで、雌株の樹齢を推定することとした。 保存状態の良好な切株の半径 39cm 部位から推定された年輪数は 129 本で、約 50 年前に伐採されたことから、今から 179 年前、天保 10 年 (1839) 頃に植えられたと考えられる。

三笑山日水院一行寺は浄土宗鎮西派、『三笑山縁起』によれば、文安元年 (1444) 照阿上人が博多辻の堂 (現 若八幡宮)に一宇を建立したことに始まる。寺は博多の利権を争う戦国大名による兵火や火災により幾度も焼失し、黒田家の資金援助により現在地(官内町)に寺地を賜り新築を果たすも、宝歴6年 (1756) 再び焼失する。多くの檀家の浄財を得て、再利用できる部材を利用し現存する本堂「萬徳殿」を再建した。現在地は北東に石堂川、山門前は唐津街道が通る博多の玄関口であり、境内中央に本堂、庫裡、山門が建つ。北東側と南西側に墓地が配され、石堂川のほとりにシダレイチョウが立つ。

一行寺のイチョウは、幾度も火災に遭った寺の歴史の中で、寺と檀家衆がイチョウの防火能力に畏敬の念を抱き、大切に育て保存されてきたと推定される。現在は雌株のシダレイチョウが1本残る。このシダレイチョウは、直立する樹幹と風雅な枝垂れの樹形は佳景であり、秋には多くの種実を付けるなど樹勢も良好である。胸高幹周りからは決して、巨樹とは言えないが、枝垂れの稀少性と端正な樹形、立地がもつ良好な景観、歴史的背景などから文化財の価値は高く、保存すべき貴重な天然記念物であるといえる。

## 2 登録文化財の概要

区分	種別	指定名称	所在地	所有者 · 保持団体
		がもじんじゃ 賀茂神社の子ども獅子	福岡市早良区賀茂	賀茂神社氏子会
		なかにしみゃじだけじんじゃ 中西宮地獄神社の子ども獅子まつり	福岡市早良区西新	中西宮地嶽神社子ども 獅子まつり実行委員会
	無形民俗	の けくしだじんじゃ ししまい 野芥櫛田神社の獅子舞	福岡市早良区野芥	野芥櫛田神社氏子会
		ひがしいるべなかどおり 東入部中通の獅子まわし	福岡市早良区東入部	中通町内会
		ひがしいるべくまもと 東入部熊本の獅子まわし	福岡市早良区東入部	熊本町内会
		もみじはちまんぐう 紅葉八幡宮獅子まつり	福岡市早良区高取	紅葉八幡宮 獅子まつり実行委員会
民俗文化財		飯盛の夏越しの獅子回し	福岡市西区飯盛	飯盛の夏越しの獅子回し
		かなたけまるてんじんじゃ 金武丸天神社の獅子ごもり	福岡市西区金武	金武丸天神社氏子会
		かなたけみょうけんじんじゃ 金武妙見神社の獅子まわし	福岡市西区金武	金武五十猛神社氏子会
		はたけなか 畑中の獅子舞	福岡市西区宮浦	畑中獅子の会
		みゃのうら 宮浦の獅子まわし	福岡市西区宮浦	宮浦子ども育成会
		がいのはま 姪浜の獅子まわし	福岡市西区姪の浜	姪の浜三丁目2区町内会
		めいのはまひがしまちことしろじんじゃ 姪浜東町事代神社の獅子まわり	福岡市西区姪の浜	姪の浜三丁目3区町内会

獅子とはライオンを形象化したもので、古来わが国においては仏法を護り、悪霊を退散させる霊獣としてのイメージが共有されてきた。特に獅子が邪霊を祓い、神仏を護る仕草を舞踊化したのが獅子舞であり、古代中国大陸や朝鮮半島より伝来した伎楽の一部として行われて以降、長い時間をかけて各地に伝播し、悪霊祓い・豊作祈願・雨乞い等の目的を持つ民俗芸能として地域に伝承されてきた。

福岡県下の獅子舞についてはかつて平井武夫氏により検討がなされ、①祓い獅子、②伎楽系舞楽的獅子舞、③演劇・狂言的獅子舞の三種に分類されている。この中でも①の系統に属し、神社でお祓いを受け神遷しをした獅子が、村の家々を戸別に回り、無病息災・五穀豊穣を祈願するという「門祓いの獅子」に類する行事が、現在も福岡市内の多くの地区で継承されている。

福岡市内の祓い獅子の多くは7月、神社の夏越の祓の祭に併せて行われている。青少年が中心となる事例がほとんどであるが、野芥櫛田神社や姪浜事代神社のように成年に達したものが主体となる事例も存在する。いずれも雌雄の獅子頭を担ぎ地域を巡回する形式で共通しており、野芥や飯盛・畑中・宮浦・姪浜等では戸別に祓いを行う「門祓い」が現在でも行われている。一方、賀茂や中西・東入部・金武の様に、町内を通過する行列に家々から水をかけるのみで門付けは省略されている事例も多い。獅子は多くの場合一人立ちで頭上に獅子頭を担ぐ場合が多いが、賀茂や中西・東入部中通等では担ぎ手となる子ども達の負担を考慮して、御輿状の台に獅子頭を乗せて運搬する事例も見受けられる。また祓い獅子の行事にあわせ、参加者の潔斎を目的として近隣の川原や海峡等でオシオイトリが行われる事例が多いのも地域的特徴をよく示している。



写真 5 東入部熊本の獅子まわし



写真 6 宮浦の獅子まわし



写真7 金武丸天神社の獅子ごもり



写真8 東入部中通の獅子まわし

行事の来歴について、飯盛や姪浜事代神社のように江戸時代の飢饉を契機として始められたという伝承を持つものもあるが、それらを含めて史料から開始時期を特定できる事例は存在しない。北部九州には昭和戦前まで、伊勢地方から伊勢神宮の神霊を遷した獅子頭を奉じた「伊勢太神楽」の一団が訪れて家祓い・竈払いを行っていたことが知られ、その影響下で「門祓いの獅子」が地域に定着した可能性が指摘されている。福岡県内では筑後地方に特に濃密に分布する他、筑豊地方や福岡平野周辺、糸島地方等に類似の行事が伝承されている。

福岡市内に伝承される祓い獅子の行事は、近世から近代にかけて地域に定着、継承されてきた基礎的な民俗慣行として、本市民の基盤的な生活文化を理解する上で重要な価値を持つ。また形を変えながら現在も継承される祓い獅子は、それぞれの地域において地域コミュニティの維持や青少年の育成に寄与する重要な年中行事であり、市文化財に登録することで行事の保存継承と地域の一層の活性化を図ることができる。



写真9 飯盛の夏越しの獅子回し



写真 10 賀茂神社の子ども獅子



写真 11 金武妙見神社の獅子まわし



写真 12 姪浜東町事代神社の獅子まわり

# 報告書抄録

ふりがな 書名名 副書次 シリーズ番名 シリーズ番名 編集機関 所在行 発行 ふくおかしまいぞうぶんかざいねんぽう 福岡市埋蔵文化財年報 平成30 (2018) 年度版 33

本田浩二郎

福岡市教育委員会福岡市中央区天神1丁目8-1令和2(2020)年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな	コ· 市町村	-ド 遺跡番号	北緯	東経	調査調査開始	期間 調査終了	調査面積 (m)	調査原因
	所在地	印则利	退跡留写			<b>间且用</b> 炉	- 調且於 ]	(111)	
けやごうびーいせき	みなみくやなが	40134	0158	33°31'31.4"	130°26'12 8"	2018.4.2	2018.4.6	54.4	共同住宅建設
警弥郷B遺跡群(1802 8次)	南区弥永5丁目19-1, 19-2	TU13T	0130	33 31 31.4	130 20 12.0	2010.4.2	2010.4.0	34.4	六时正七建政
はらひがしいせき	さわらくいいくら	40127	0212	22022120 0"	120020152.78	2010 5 0	2010 5 22	76	共同住宅建設
原東遺跡 (1807 4次)	早良区飯倉4丁目522番1	40137	0313	33°33'38.8"	130°20′53.7″	2018.5.9	2018.5.22	76	共问往七建政
ありたいせきぐん	さわらくありた	40137	0309	22022146 01	130°20'02.1"	2010 5 21	2010 6 5	192	モデルルーム
有田遺跡群(1808 265次)	早良区有田2丁目20-8,20-9	40137	0309	33*33 40.8	130°20'02.1"	2018.5.21	2018.0.5	192	モテルルーム
やながばるいせき	みなみくやなせ	40124	0105	22022102.28	130°26'16.6"	2010 € 10	2010 6 27	74	用工作党
弥永原遺跡(1810 14次)	南区柳瀬1丁目134番2	40134	0105	33°32 02.3	130-20 10.0	2018.0.18	2018.0.27	/4	個人住宅
たかふしいせき	ひがしくしもばる	40121	2741	33°40'27.4"	120026150.0"	2010.0.1	2010 0 0	105.5	擁壁工事
高節遺跡(1812 1次)	東区下原4丁目907番6	40131	2/41	33°40 27.4	130-20 56.0	2018.8.1	2018.8.9	105.5	7班聖上事
のけいせき	きわらくのけ	40127	0319	33°32'32.4"	120020151 28	2018.8.2	2018.8.3	84	共同住宅建設
野芥遺跡(1815 17次)	早良区野芥4丁目679-1,680-1,680-3	40137	0319	33°32 32.4	130-20 51.3	2018.8.2	2018.8.3	84	共问往七建政
ひえいせきぐん	はかたくはかたえきみなみ	40122	0127	22024142.0"	120025122 61	2010 10 0	2010 11 7	121 (1	+日子党建50
比恵遺跡群(1826 153次)	博多区博多駅南5丁目69番	40132	0127	33~34.42.8"	130°25'33.6"	2018.10.8	2018.11./	121.61	共同住宅建設
いいくらいーいせき	じょうなんくななくま	40126	0252	22022145 5"	120021122 28	2010 1 21	2010 2 2	121 24	+日子党建50
飯倉E遺跡(1837 3次)	城南区七隈 5 丁目384	40136	0252	33~33 15.5	130°21'23.3"	2019.1.21	2019.2.2	131.34	共同住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
警弥郷B遺跡群(1802 8次)	集落跡	弥生~中世	溝	須恵器	
原東遺跡(1807 4次)	集落跡	弥生~中世	土坑・ピット・住居	弥生土器・土師器・陶磁器	
有田遺跡群(1808 265次)	集落跡	弥生~中世	溝·土坑·柱穴	弥生土器·土師器·須恵器·陶磁器·石器	
弥永原遺跡(1810 14次)	集落跡	弥生~中世	土坑・ピット	土師器·須恵器	
高節遺跡(1812 1次)	墳墓	古墳	古墳	須恵器	
野芥遺跡(1815 17次)	集落跡	弥生~中世	溝・土坑・ピット	土師器・須恵器・貿易陶磁器・国産陶器	
比恵遺跡群(1826 153次)	集落跡	弥生~古代	溝・ピット	弥生土器·土師器·石器	
飯倉E遺跡(1837 1次)	集落跡	古墳~中世	住居・堀立柱建物・溝・柱穴	土師器·須恵器	

福岡市埋蔵文化財年報 Vol.33 一平成 30 (2018) 年度版一

発 行 日 令和2年3月25日 編集·発行 福岡市教育委員会 〒 810-8620 福岡市中央区天神 1 丁目 8-1

刷 株式会社 NK 企画

〒 810-0011 福岡市中央区高砂 1 丁目 6-19

# THE ANNUAL REPPORT OF THE BURIED CULTURAL OF FUKUOKA CITY VOLUME 33



# THE BOARDS OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

DECEMBER 2019

**JAPAN**